

有令

得しは  
服部卓四郎其日大東興業會社  
代表

第二日獨伊三國條約御前會議ニ關スル件

8 2.1.0.0. - 33 420

B-0061

第二、日獨伊三國條約御前會議ニ關スル件

(松本條約局長覺)

- 一、日獨伊三國條約締結ニ關シ九月十四日四相會議ノ結果大體ノ方針決定ヲ見同夜獨逸大使館ニリッ  
ベントロップ外相ヨリ修正案ヲ電報シ來リタルヲ以テ右案ニ依リ至急政府ト大本營トノ連絡會議(御  
前會議)ヲ開催スルコトニ決定ヲ見タルヲ以テ松本條約局長ハ九月十六日午前總理官邸ニ稻田總務  
課長ヲ訪問シ打合せヲ遂ゲタル結果前二回ノ御前會議ノ例ニ倣ヒ別紙甲號ノ次第案ヲ作成シ又別紙  
乙號ノ如キ要綱案ヲ作成スルコトニ打合せタリ
- 二、御前會議ハ九月十九日午後三時ヨリ宮中ニ於テ開催セラレ左ノ各官出席セリ  
參謀總長宮、軍令部總長宮、近衛總理大臣、松岡外務大臣、河田大藏大臣、星野企畫院總裁、原  
樞密院議長、澤田參謀次長、近藤軍令部次長
- 三、會議ハ近衛總理大臣ヨリ別紙丙號ノ通りノ挨拶アリ次デ松岡大臣ヨリ別紙丁號ノ通り説明アリ質  
疑應答ノ後原案可決ノ後出席者議題ニ署名シ上奏御裁可ヲ經タリ午後六時半頃散會

B-0061

甲 號

第二回御前會議次第案

- 一、出 御
- 二、内閣總理大臣、御許シヲ得タルニ依リ本日ノ會議ノ議事進行ニ當ル旨ヲ宣シ會議ノ趣旨ヲ説明シ且外務大臣議題ノ説明ニ當ル旨ヲ述ブ。
- 三、外務大臣ヨリ議題ヲ説明ス。
- 四、總理大臣ヨリ質疑ノアル向ハ之ヲ述ベラレ度キ旨ヲ述。
- 五、右ニ依リ質疑應答。
- 六、參謀總長ヨリ意見ヲ開陳セラル。
- 七、軍令部總長ヨリ意見ヲ開陳セラル。
- 八、樞密院議長ヨリ意見ヲ開陳ス。
- 九、總理大臣ヨリ原案可決ト認ムル旨ヲ述ブ。
- 十、總理大臣、會議終了ヲ言上ス。
- 十一、入 御

一八七

S 2.1.0.0. - 33

422

B-0061

十二、議題ニ參列者花押、續テ上奏手續ヲトル。

一八八

乙 號

日獨伊三國條約締結ニ關スル件(御前會議議題)

S 2.1.0.0. - 33

423

S 2.1.0.0. - 33

424

B-0061



日獨伊三國條約締結ニ關スル件(御前會議議題)

日獨伊樞軸強化ノ爲別紙要綱ニ依リ獨伊兩國政府ト交渉ヲ遂ゲ日獨伊三國間ニ條約ヲ締結スルコト

一九一

S 2.1.0.0. - 33

425

B-0061

別紙

要 綱

- 一、日本國ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ獨逸國及伊太利國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト
- 二、獨逸國及伊太利國ハ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ日本國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト
- 三、日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ趣旨ニ基テ努力ニ付相互ニ協力スルコト並ニ右三國ノ中一國ガ現在ノ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ニ依リテ（公然ト又ハ陰密ニ）攻撃セラレタル場合ニハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スベキコト
- 四、日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互相倚リ現ニ變化シ又變化シツツアル世界情勢ニ適應スベキ世界新秩序ノ建設ニ依リテノミ平和ノ公正ニシテ恒久的ナル基礎ヲ造リ得ルモノナルコトヲ信シ其ノ實現ニ關スル各自ノ努力ヲ整調結合スルコト
- 五、日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記各項カ日獨伊三國ノ各ト「ソヴェト」聯邦トノ間ニ現存スル政治的狀態ニ如何ナル影響ヲモ及ボササルモノナルコトヲ確認スルコト

一九三

S 2.1.0.0. - 33

426

B-0061

丙 號

日獨伊三國條約締結ニ關スル件

(近衛總理大臣御前會  
議席上ノ挨拶文案)

御許シラ得タルニ依リマシテ本日ノ會議ノ議事進行ハ本大臣ニ於テ之ニ當ルコトニ致シマス。御承知ノ通り支那事變ハ未ダ解決セザルニ當リ近來米國ノ我國ニ對スル態度ハ相當強硬ヲ加ヘテ居リマスガ米國ノ態度ガ硬化スルニ連レマシテ重慶政府其ノ他日本ニ敵意ヲ有スル各國政府ノ態度ニモ影響シ我國ノ國際的地位ハ益々困難トナリ前途誠ニ憂慮ニ堪ヘザル次第デアリマス。此ノ難局ヲ打開致シマス爲ニハ我國ノ國際的立場ヲ強化スルコトガ必要デアリマスガ其ノ方法ハ現在ノ環境ニ於テ我方ト利益ノ一致スル國家トノ提携ヲ強化スルコト以外ニハナイト思ヒマス。然ルニ獨伊ハ米國ノ參戰ヲ防止スルコトヲ希望シ我國ハ米國トノ危機回避ヲ希望スル點ニ於テ利害ノ一致ヲ見テ居ルノデアリマス。依テ政府ハ組閣以來銳意此ノ方向ニ向ツテ努力ヲ續ケテ來タノデアリマスガ、最近ニ至リ遂ニ御手許ニ差上ゲマシタルガ如キ要綱ニ依リ我國ガ今次歐洲戰爭ニ參加スルコトナクシテ右兩國トノ提携ヲ強化シ得ルノ機運ニ達シ右ニ基キ兩國ト交渉ヲ遂グ度イト思ヒマス。而シテ本案件ハ固ヨリ平和ヲ目的トスルモノデアリマスガ最悪ノ事態ノ發生ヲモ覺悟スル必要ガアリマスノテ我國運ノ消長ニ關スル未會有ノ重大案件ト申スベキデアリマス。依ツテ極メテ慎重ニ審議ヲ盡シ御決定ヲ仰ギ度イト考ヘ

一九五

8 2.1.0.0. - 33

427

B-0061

マシタノデ本會議ノ開催ヲ奏請致シマシタ次第デアリマス。本案件ノ本日迄ノ經過並ニ獨、伊兩國政  
府トノ間ニ締結セントスル條約要綱ニ付テハ外務大臣ヨリ詳細説明致サセ度イト思ヒマス。

一九六

428

S 2.1.0.0. - 33

丁 號

日獨伊三國條約締結ニ關スル外務大臣説明案 (御前會議)

甲、經 過

本大臣ハ七月下旬、現内閣ガ成立致シマシテ以來、只今内閣總理大臣ノ申サレマシタ趣旨ニ基キ、  
獨伊トノ政治的提携ヲ強化シタイト思ヒマシタガ、當時、獨逸ハ佛蘭西ヲ席捲シ、英本國ノ如キモ、  
旬日ヲ出デズシテ、容易ニ征服シ得ルト云フヤウナ氣勢デゴザリマシテ、獨逸ニ於ケル、我國トノ  
提携熱ハ一般ニ極メテ低カッタノデアリマス。然シテナガラ獨伊ハ、今英本國ヲ屈服サスコトガ出來  
マシテモ、其ノ後ニ於テ、英帝國全部ノ崩壞戰ハ事シカク容易デハゴザリマセス上ニ、更ニ米國ト  
英帝國ノ殘存勢力トガ結合シテ出來ルトコロノアングロ・サクソン王國又ハプロククトモ云フベキモ  
ノト今次ノ戰爭ニ依ツテ強大ヲ加ヘタルリ聯邦ト云フ二大勢力ト對抗シナケレバナラヌコトハ明瞭  
デアリマス。其ノ場合地理的ニ惠マレタ地位ヲ占メ且世界無比ノ國體ノ下ニ優秀ナル民族ヲ持ツ我  
國ノ力ハ偉大ナルモノガアリマスノミナラズ、現在ト雖モ或意味ニ於キマシテ皇國ハ實ニ世界ノ天  
秤ヲ左ニデモ右ニデモ上下サス丈ノ力ヲ持ツテ居ルト云フノガ不肖本大臣ノ抱ケル見透シト見解デ  
アリマス。而シテ此ノ事位ハヒトラ一總統及少クトモ其ノ周圍ノ者ダケハ認識シテ居ルデアラウト

一九七

S 2.1.0.0. - 33

429

B-0061

想像シマシタ、否ソノ容子が多少窺ハレタノデゴザリマス。彼等ハ當時ニ於テモ我國トノ提携ニ相  
當ノ熱意ヲ持ツテ居タヤウデアリマス。根本ニカヤウナル考ヲ持ツテ居リマシタガ故ニ私ハ諸般ノ  
情況上一應ハ急ギタイト云フ心特ノ中ニモ固ヨリ下手ニ出ル要モナク、又已ムヲ得ナケレバ英本國  
屈服後トナツテモカマワヌ、若シサウナツタナラバ、愈々以テ緩ツクリト構エヤウト決意シテ居ッ  
タノデアリマス。何レニ致シマシテモ、當時焦ルト見ラレルヤウナ手ヲ我方カラ出シマスルコトハ  
外交上禁物デアッタノデゴザリマス。我ガ獨自ノ立場ヲ堅持シ、必ズシモ獨伊ト結ブノ要ナシ、若  
シソレガ我國ノ存立ト使命遂行上、必要又ハ便利デアルナラバ、米ト結び、或ハ英ヲ救フコトヲモ  
敢ヘテ辭セヌト云フ姿勢サヘ示シテカカラナケレバナラヌト信ジタノデアリマス。ソレカラ、何ヨ  
リモ先ツ獨伊始メ世界ニ向ツテ本件ニ關シ斥候戰ヲ始メナケレバナラナカッタノデアリマス。本大  
臣ハ就任前後ヨリ遲滞ナク之ヲ開始シ、少シク容子が知レマシタノデ、一步ヲ進メ本大臣ハ八月一  
日オット大使ヲオ茶ニ招キテ、樞軸強化ガ我朝野ヲ通ジテノ傾向ナルハ貴大使モ御承知ノ通りデア  
ルガ、ソレガ物ニナルニハマダマダ容易デハナイ、廟議モ未ダ具體的ニ確定シテハ居ナイト云フ趣  
旨ヲ告ゲマシタ上、支那事變ハ日本獨力ニテ其内片付クル考デアルカラ、別ニ獨逸ニ於テ意ヲ煩ハ  
サレナイデヨロシイト申述ベマシテ、一應大使ノ仲介セントスル口吻ヲ押へ、我建國以來傳統タル  
八紘一宇ノ大理想ヲ實現セントスル決意ノ真劔ナル事ト、先ヅ之ヲ大東亞共榮圈内ニ於テ試ミン

トスルモノナル旨ヲ説キ、次デ、タトヘ英本國ガ間モナク屈スルトモ、ソレハ大英帝國崩壞ノホソ  
ノ初マリナルニ止マリ、決シテ終ニアラザル所以ヲ申聞ケ(大使モ同様ノ事ヲ自ら進ンデ申シテ居  
リマシタ)右二ツノ大局的觀點ヨリシテ、獨モ亦日本トノ提携ノ可否ヲ決スベキデアルト結論シ  
(一)大東亞固ニ對スル前述ノ日本ノ理想實現ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、如何ナル事ヲ以テ日  
本ヲ助ケ得ルカ又助ケル考ナルカ、又コノ圈内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求ムルカ、(二)日ノ關係ニ就キ獨逸  
ハ如何ニ考フルカ、又何ヲナシ得ルカ、(三)日米關係ニ就キ如何ニ考フルカ又何ヲナシ得ルカトテ、  
以上三項ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急ヒトラ一總統トリペンツロフ外相ニ架電シテ、其返事ヲ得  
ラレタシト告ゲマシタ。  
右ニ對スル返事ハ容易ナラズトシテ、獨大使ハ濫ツテ居リマシテ、私モ亦容易ニソノ返事ハ來ナイ  
デアラウト豫想シマシタトコロ、果シテ來マセンデシタ。私ハ態ト催促セズニ放ツテ置キマシタ。  
然ルニ、リッペンツロフ外相ハ其東洋問題ニ關スル懷刀デアルト言ハレテ居リマスル、ハインリッ  
ヒ・スターマー總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二十三日ベルリン出發、急遽モスコトヲ經テ、  
本邦ニ送タタノデアリマス。同公使ハ九月七日期東京ニ着キマシタノデアリマスガ、本大臣ハ別ニ  
急イデ會ヒタイ態度ハ示サナカッタノデアリマス。トコロガ九日先方ヨリ會見ヲ申出デマシタノデ、  
人目ヲ避クル爲同日私ノ私邸デ、同公使及オット大使ト會見致シマシタ。ソレカラ十日二度目ノ會

B-0061

見ヲ遂ケ九月十一日三度目ノ會見ニ於テ一案ヲ得、更ニ獨逸本國政府ト本大臣トノ間ニモ意見ヲ交換シタル結果御手許ニ差上ゲマシタ要綱ノ如キモノニ大體落チツキマシタガ、此要綱ニ掲グラレテ居リマス各點及ビ八月一日オット大使ヲ經テベルリンニ電報セシメマシタ本大臣ノ質問各點ニ付キマシテハスターマーハ明確率直ニ其ノ見解ヲ述ベテ居リマシタ次第デ、此點ハ本大臣ニ於テモ満足ト致シテ居ル次第デアリマス。依テ今後更ニ是ニ基イテ交渉ヲ進メ細部ニツキ妥結ニ達シタイト思ヒマス。

乙、要綱ノ説明

第一項ノ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスガ、當方デハ當初アフリカニ於ケル新秩序建設ヲ先方ガ持出スカト思ツタノデゴザリマスガ、先方ガ之ヲ持チ出サナカッタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル地位承認ニ限ツタ次第デアリマス。

第二項ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、タイ國、ビルマ、海峽植民地、蘭印ヨリニューギニヤ、ニールカレドニヤ等ヲ含ムオセアニアノ島嶼ヲ含ム意味デアリマシテ、此ノコトハ此際ノ事デモゴザリマスシ、ソレニ東亞ノ形勢如何ト世界情勢ノ推移ニヨリ漸次其範圍ニ變更ノアリマスコトト豫想サレルコトデモゴザリマスノデ、先方ハハ態ト大綱ミ

ニ話シ、濠洲トニュージラランド及其以南ハ今ノ處這入ラスガ、時ト共ニ自然範圍ハ擴ガルナラント申聞ケ、印度ニハ言及ヲ避ケマシタ。先方モ別ニ細カクハ尋ネズシテ本大臣ノ所述ニ同意ノ意ヲ表シマシタ。

是ニ對シ獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ認ムルガ、經濟的ノ通商、企業、原料取得ト云フガ如キコトニ就テハ日本ニ於テモ出來得ル限り便宜ヲ與ヘテ貫ヒタイト申シテ居ルノデアリマス。日本側モ亦同地域ノ經濟的開發ニハ大ニ獨伊ノ協力ヲ得シコトヲ期待スルモノデアルト應酬シテ置キマシタ。

第三項ノ中「一國又ハ數國ニ依リ（公然若ハ陰密ニ）攻撃セラレタル場合云々」ノ一國ト申スノハ暗ニ米國ヲ主トシテ指シタノデアリマシテ、其ノ一國ニ依リ攻撃セラレタル場合ニハ自働的ニ參戰義務ガ發スル次第デアリマシテ、即チ我國ハ獨伊ト米國ヲ對照トスル軍事同盟ニ這入ルノデアリマス。公然若ハ陰密ニ攻撃セラレタル場合」ノ「公然若ハ陰密ニ」ノ文句ハ先方デ入レテ來タノデアリマスガ、スターマー公使及オット大使ハ一應ハ之ヲ削除スルコトニ贊成シ、其事ヲリッペン外相ニ電報シタノデアリマスガ、マダ或ハ獨外相ガ之ヲ固執スルカモ知レヌト云フ餘地ハ殘ツテオリマス。其ノ解釋ハ相當困難デアリマシテ、特ニ陰密ニ攻撃セラレタルトハ如何ナルコトデアルカ問ヒマシタ處、米國ガ今ノ程度ノ事ヲ爲シテルコトヲ意味スルノデハナイ、寧ロ日本ノ爲ヲ思ツテ考ヘタコト

デ、例へば英國ノ有スル太平洋ノ重要地點ヲ、英トノ秘密取極ニ依リテ使用シ、或ハ直ニ米國ガ艦隊ヲシンガポールニ入レル、ト云フガ如キ場合ヲ意味スルノデアルト答ヘマシタ。之ニ對シテ本大臣ヨリ、然ラバ獨伊ニ關シテハ如何、ト問ヒマシタニ對シ、先方ハ、タトヘバ歐洲戰場ニ近接セル地點、地中海ニ在ル英ノ有力ナル根據地ヲ米ヲシテ占據セシムルトカ云フヤウナル場合ヲ指スモノナルベシト答ヘマシタ。右ノ如ク攻撃ヲ二ツノ種類ニ區別スルニシテ、單ニ「攻撃」トスル場合ニシテ、米國又ハ其ノ他ノ第三國ノ或行動若クハ行動ノ連鎖ガ、果シテ本項ニ所謂攻撃ヲ構成スルモノト認ムベキヤ否ハ三國協議ニ依ツテノミ決定セラルルノデアリマス。爲念何等カノ形ニ於テソノ事ヲ明瞭ニシテ置カウト云フ話合ニシテアリマス。依ツテ執レノ辭句トオストモ懸念ハナイト存ジマス。

11011

第四項ニ就テハ別ニ説明スル必要ハナカラウカト存ジマスルガ、コレハ大體前文ニスル考デ話ヲ進メ先方モ略同意致シテ居リマス。我建國ノ御詔書ノ中ニアリマスル八紘一宇即チ總テノ國民、民族ガ各々其所ヲ得ルト云フ大精神ヲモ取入レテ餘程辭句ヲ練ツタモノデ御座リマス。

第五項ハ本條約ガ蘇聯ニ向ケラレタルモノニ非ザルコトヲ規定シタモノデアリマス、ガ、實ハリ聯ハ獨伊對英佛戰ニハ參加シテ居ナイ建前トナツテ居ルノデ、或ハ第三項ノ所謂「一國」ニ相當スルモノデハアルマイカトノ疑惑ヲ生ズル虞モアリマスシ、旁々日獨伊ガ世界新秩序ヲ造ル上ニ於テ蘇

聯ヲ敵ニ懸念ノナイコトヲ明カニシ、特ニ獨逸ト蘇聯トノ間ニポーランド始メ、歐洲ニ於ケル現在ノ取極又ハ見解若クハ或種ノ事態ヲ存セル、ソノ事實ニ些カモ影響スル所ノナイコトヲ明カニシテ、蘇聯ヲ安心サセ、之ニ依リ米蘇ノ接近ヲ防グノ目的ニ資シヤウトスル趣旨デアリマス。尙ルニ條約附屬文書ヲ作成致シマシテ、本條約成立後速ニ東京、伯林、羅馬ニ軍事及經濟ノ混合委員會ヲ結成シ、本條約ノ趣旨ニ基キ、實行ニ關スル詳細ナル取極ニ就テ研究セシメ、政府ニ提示ノ上政府ノ承認ヲ求メシムベキコトヲ規定シタイト思ヒマス。又獨伊兩國ガリ聯ヲシテ本件條約ノ趣旨ニ同調セシメ且我國トリ聯トノ國交調整ニ斡旋ノ勞ヲ執ルベキコト並ニ獨逸ガ我方ニ對シ戰爭資材及技術並要スレバ技術官其他ノ人員等ヲ供給シ、蘇聯其ノ他ヨリ石油ノ獲得ニ協力シ、又我方ヨリモ供給シ得ルモノナラバ、戰爭資材及食糧其ノ他生活必需品并技術ヲ供給スル等ノ事ヲ約束スルコトニナラウト思ヒマスガ、形ハ一應ハ相互的ノ辭句トシナケレバナラヌコトト存ジマス。

更ニ此要綱ノ趣旨ニハ交渉ノ成行ニ依ツテハ、多少ノ變更ヲ見ルコトモアリマセウ、又字句ノ修正ヤ形式ノ變更モ御座イマセウト存ジマスガ、此邊ハ外交接衝上ノ手心ヲ加ヘルコトヲ御許シ戴キタイト存ジマス。但シ如何ナル場合ニモ右要綱ノ根本ノ趣旨ヲ變更スルヤウナコトハ致シマセウ考デ御座イマスガ若シ萬ガ一ニモ根本趣旨ニ變更ヲ來サネバナラヌヤウナ場合ニ立到リマシタナラバ、改メテ必要ナ手續ヲ執リマスコトニ御合ミヲ願ヒマス。

11011

丙、結 言

今回ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼内閣時代ノ夫レト全ク異ツテ居リマス。即チ獨逸側モ日本ノ歐洲戰爭  
參加ノ必要ナシト言明シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日米衝突ヲ、回避  
スル事ヲ共通目的トシタノデアリマス。從テ皇國政府ガ從來採ツテ來マシタ不介入ノ方針ハ、將來  
本條約ニヨリ影響セラレコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ繼續セラレル次第デアリマス。  
米國ハカナダトノ共同防衛ヲ決定スルヤ、間モナク、日米間ノ些細ナ問題ニ迄、殆ンド堪へ難イ  
思ヘルガ如キ態度ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米大統領及國務長官ノ  
反省ヲ促シタヤウナ次第デアリマス。

最近ノ動キニ就キ洞察シマスルニ、米國ハ太平洋及ビ南洋方面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シ  
ツツアル軍事施設ニ加フルニ此ノ際飛躍的ニ且取急イデ濠洲、新西蘭、印度、ビルマ其ノ他ノ南方  
ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ整ヘントシテ居  
ルノデアアルマイカト、カナダトノ前述共同防衛ニ關スル協定成立ガ報ゼラレマシタル時、本大臣  
ハ已ニ想像シタノデゴザリマスガ、其ノ後間モナク果然英帝國及ビ濠洲政府ト米國トノ間ニ、協議  
進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト想ハルル、新聞報道サヘ傳ヘラルルニ至ツタノデアリマス。  
又段々ト支那事變ニテ日本ガ消耗戰ニ惱ンデ、國力ガ著シク減殺セラレタト見テ恫喝の言辭ヲ弄ス

ルノデアアルマイカト想像セラレ廉モゴザリマスガ、ソノ理由ノ那邊ニ在ルニセヨ、日米國交ハ  
最早禮讓又ハ親善希求等ノ態度ヲ以テ改善スルノ餘地ハ殆ンドナイト思ハレマスノミナラズ、却ツ  
テ惡化ナス丈ノ事デアアルマイカト懸念セラレル有様ニナツテ參リマシタ。若シ幾分ニテモ之ヲ改  
善シ又ハ此ノ上ノ惡化ヲ防グ手段アリトスレバ唯毅然タル態度ヲ採ルト云フ事シカ、此ノ際ノ措置  
トシテハ、殘ツテ居ナイト存ジマス。苟モ然リトスレバ、ソノ毅然タル態度ヲ強ムル爲ニ一國ニテ  
モ多クノ國ト堅ク提携シ、且ソノ事實ヲ一日ニテモ、遠ニ中外ニ宣明周知セシムルコトニ依リテ、  
米國ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアルト信ズルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響  
乃至效果ヲ注視シツツ尙米トノ國交ヲ轉換スルノ機會ハ、之ヲ見逃サナイ用意ヲ常ニ怠ラナイ覺悟  
デゴザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ堅イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ツテ一  
點疑ヒラ容ル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセス。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最  
重要ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

B-0061



13

千代文後 (1) 11/22/11  
本館蔵

第三目獨伊三國條約樞密院  
付議ニ關スル經緯

B-2.1.0.0.-33 438

B-0061

第三、日獨伊三國條約樞密院付議ニ關スル經緯（松本條約局長覺）

一、日獨伊三國條約ハ諸般ノ政治情勢上締結ヲ急グト絶對ニ必要ナリシ事情モアリ之ヲ調印前ニ樞密院ニ付議セズ日英同盟締結ノ際等ノ前例ニ依リ調印後樞密院ニ勅語ヲ賜リ總理大臣及外務大臣ヨリ報告セシメラルル形式ヲ採ルヲ可トスベシトノ議アリタルモ九月十九日本件ニ關シ開カレタル御前會議ニハ樞密院議長モ出席シ居リタル爲樞密院議長、總理大臣、外務大臣等ノ間ニ此ノ際憲法上ノ機關タル樞密院ノ審議權ハ出來得ル丈尊重スル意味ニ於テ事前ニ樞密院ノ詢議ニ付セララルヲ可トスルニ意見一致シ只特殊ノ事態ニ鑑ミ樞密院ノ手續ヲ一日限リニテ終了セシメ例ヘバ午前中ニ審査委員會（全顧問官出席ス）ヲ開キ午後ニ本會議ヲ開クコトニ大體話合ヒ纏リタリ

二、依テ松本條約局長ハ二十日堀江樞密院書記官長ヲ訪問シ事態急迫セルヲ以テ條約全文ヲ樞密院ニ付議スルコトハ困難ナルヲ以テ要綱ヲ付議スルコトトシ度キ旨述べタルトコロ書記官長ハ右ノ趣旨ハ法制局長官ヨリモ申出デアリタルヲ以テ議長ト相談ノ上確答致スベシト答ヘタリ次デ松本條約局長ハ村瀬法制局長官ヲ訪問シ右ノ趣旨ニテ打合セラ遂グ置キタルトコロ同日樞密院書記官長ヨリ松本條約局長ニ對シ先程ノ御話ヲ議長ニ報告シタルトコロ議長ハ昨日外務大臣ハ條約全文ヲ樞密院ニ付議セララルベシト云ハレ議長ニ於テハ右ノ如ク了解シ居ルヲ以テ此ノ際要綱ヲ付議セララルコトハ

七〇四

B-0061

昨日ノ語合ヒト異ナル旨申サレ居ル趣電話アリタリ依テ松本條約局長ハ松岡大臣ニ右報告シタルニ  
大臣ハ右ノ如キコトヲ言明シタルコトナキモ一應樞密院議長ト話合テ遂グベシト答ヘラレタリ  
三、斯クテ松岡外務大臣ハ原議長ト電話ニテ相談セラレタルコロ近衛總理ヨリ原議長ニ對シ條約全  
文ヲ付議スル旨言明セラレタルコト判明セルニ依リ條約全文ヲ付議スル建前ニテ進ムルコトニ決定  
セリ

四、當時(九月二十日)條約交渉ハ即日妥結ヲ見ルヤモ計ラザル情勢ナリシヲ以テ何時ニテモ樞密  
院ノ會議ヲ開ク様手配シアリタルモ翌二十一日ノ松岡大臣トオット大使トノ會談ノ結果右必要ナキ  
ニ至リタルヲ以テ二十二日(日曜日)及二十三日(祭日)ノ兩日ハ樞密院會議ヲ開カザルコトニ打  
合セタリ

五、本件條約交渉ハ最初ヨリ松岡大臣トオット大使トノ間ニ英語ヲ以テ爲サレ從テ條  
約案文竝ニ附屬文書ハ英文テキストノミニテ審議ヲ進メ居リタルガ何語ノテキストヲ以テ正文トス  
ベキヤニ付テハ松岡大臣ハ英語ノテキストヲ正文トセザレバ夫レノミニテ多大ノ時日ヲ費スコトト  
ナルコトヲ主張シ其ノ旨ハ獨逸側ヨリ伯林ニモ電報セラレ居リタル次第ナルガ此ノ點ニ關スル獨逸  
側ノ態度明カナラズ依テ九月二十三日午後松本條約局長ハ松岡大臣ノ命ヲ受ケ獨逸大使館ニオット  
大使及スターマー公使ヲ訪問シ此ノ際英文テキストノミヲ正文トスル他至急事ヲ取運フ方法ナキ旨

ヲ重テ申入レ伯林ニ再ビ電報方依頼シ置キタルコロ九月二十六日午前十一時獨逸大使館ボルトツ  
參事官松本條約局長ヲ來訪獨逸側外務省ヨリ大使宛左ノ通り來電アリタル旨述ベタリ  
イ、獨逸政府ハ英文テキストニ假ニ署名スルコトニ同意ス

ロ、右事實ハ獨逸ガ目下英國ト戰爭中ナル事態ニモ鑑ミ絕對ニ極秘トス  
ハ、二週間位後ニ祕密裡ニ英文テキストヲ日本文、獨逸文、伊太利文テキストニ拘替ヘ署名ス  
依テ松本條約局長ハ松岡大臣ニ報告スルト共ニ村瀬法制局長官ト共ニ堀江樞密院書記官長ヲ訪問シ  
誠ニ異例ノ事ニ屬スルモ此ノ際已ムヲ得ザル次第ナルヲ以テ右獨逸側ノ要求通り措置スルコト致  
シ度キ旨ヲ申入レタトコロ同書記官長ハ原議長ト協議ノ上右ニ同意ヲ與ヘ翌二十六日午前十時ヨリ  
審査委員會ヲ開キ終了後成ルベク速ニ本會議ヲ開クコト竝ニ條約ノ日本文ノミヲ御諮詢ノ客體トシ  
英文及附屬文書(日本文及英文)ヲ參考トシテ上奏案ニ附屬セシムルコトニ打テ合セタリ  
六、審査委員會ノ席上(審査委員會ノ議事概要ニ付テハ別ニ記録アリ)ニ上顧問官ヨリ(一)御諮詢ノ  
客體トナルモノハ條約文ノミナリヤ(二)條約ノ用語ハ何語ナリヤ等ニ付キ質問アリ松岡大臣ヨリ一  
應ノ説明アリタルモ納得スルニ至ラズ原議長ヨリ本件ハ懇談會ニ譲リタシト提議シ審査委員會ヨリ  
政府側退席ノ後懇談會ヲ開キ政府ノ措置ヲ其ノ儘是認スルコトニ決定ヲ見タリ

第四日獨伊三國條約ニ關スル樞密院  
審査委員會議事概要

6 2.1.0.01-33

442

B-0061

第四、日獨伊三國條約ニ關スル樞密院審査委員會議事概要

(松本條約局長手記)

昭和十五年九月二十六日午前十一時二十分開會

宮中東三ノ間ニ於テ

出席者

樞密院側 原 樞密院議長

鈴木樞密院副議長(審査委員長)

缺席ノ金子顧問官及田中顧問官ヲ除キ全顧問官審査委員トシテ出席

政府側 近衛内閣總理大臣

松岡外務大臣

東條陸軍大臣

及川海軍大臣

河田大藏大臣

星野企畫院總裁

B-0061

他ニ説明員トシテ

村瀬法制局長官

森山第二部長

松本條約局長

武藤軍務局長

阿部軍務局長

原口爲替局長

松隈銀行局長

辻監理局長

議事

- 一、委員長開會ヲ宣シ書記官ヲシテ條約案文ヲ朗讀セシム
- 二、近衛總理大臣別紙甲號ノ通挨拶ヲ述ブ
- 三、松岡外務大臣別紙乙號ノ通説明ス
- 四、席順ニ依リ質問ニ入ル

河合顧問官 本官ハ本案ノ趣旨ヲ完全ニ了解セリ本官トシテハ豫テヨリ日獨伊同盟ノ成立ヲ希望シ居  
 リタルモノニシテ松岡大臣就任以來其ノ速ナル實現ヲ期待シ一部ニ松岡大臣ノ活動ヲ手緩シトスル  
 論モ耳ニシタルガ今回遂ニ之ガ成立ヲ見タルハ欣快ニ堪エザル所ナリ只今ノ松岡大臣ノ説明ニ依レ

バ伊太利ノ態度ハ明ナラザル處此ノ點ヲ承リ度シ

松岡大臣 本件諾合ハ先程モ述べタル通り日獨間ニ始メラレタルモノニシテ獨側ハ最初ヨリ伊太利ノ  
 方ハ引受ケ居レリト申述べ居リタリ昨日伊太利大使ハ本大臣ヲ訪問シテ伊太利ハ本件交渉ノ一切ヲ  
 獨側ニ委任シ日獨間ニ纏リタル條約案ニ伊側ハ全幅的ノ賛意ヲ表スル旨本國政府ノ訓令ニ依リ申入  
 レ來リタル次第ナリ

河合顧問官 附屬ノ交換文書ヲ一覽スルニ日獨間ノ關係ノミヲ述ベ居ル處伊太利ヨリモ同様ノモノヲ  
 取付クル必要ナキヤ

松岡大臣 實ハ我方トシテハ凡テ獨逸ニ重點ヲ置キ伊太利側ヲ附隨的ノモノト考ヘテ差支ナシト思考  
 ス從テ交換文書ノ中ニ於テ獨逸外務大臣ガ伊太利ノ援助及協力ヲ必要トスル場合ニハ伊太利ハ勿論  
 獨逸及日本ト同調スベキコトヲ絕對ニ信ズル旨ヲ掲ゲシムルニ止メタル次第ナリ

河合顧問官 條約第三條ハ最重要ト思考ス本官ハ日米開戦ヲ信ズルモノニ非ザルモ最悪ノ場合ヲ考  
 慮シテ軍部大臣ハ何等敗ケテ取ラザル丈ノ覺悟アリト信ズルガ之ニ就テ何等カ本官等ニ安心ヲ與フ  
 ル様御説明ヲ承リ度シ又蘇聯ガ日本ニ向テ事ヲ起サザルモノトモ限ラズ此ノ場合獨逸ハ如何ナル態  
 度ヲ執ルモノト考ヘラルルヤ

東條陸軍大臣 本大臣ハ主トシテ陸軍ノ見地ヨリ御回答ス最悪ノ事態ニ陥リタル際對米作戰ニ要スル

二二三

二二三

陸軍ノ兵力ハ極一部分ヲ使用スルニ過ギズ其ノ點ハ御懸念ハ無用ト思考ス然シテ對米作戰ハ結局對蘇作戰ヲ考慮セザレバ完全ナリト云ヒ難シ依テ日蘇ノ國交調整ハ極メテ重要ナル問題ニシテ之ガ有效ニ完成スレバ軍事の準備ハ余程樂ニナルモノト考ヘ得ル處蘇聯ノ性格上日本トシテ準備ヲ怠ル譯ニハ參ラズト思考ス尙支那事變ニ付テハ本條約ヲ有效ニ活用スルコトニ依リ最悪ノ事態發生前事變ノ解決ヲ圖リ度キ考ナリ

及川海軍大臣 現存艦隊ノ戰備ハ完成シ居レルヲ以テ決シテ米國ニ敗ケハ取ラザルモ戰爭ガ長期ニ亘ル場合ニハ米國ノ海軍充實計畫ノ實現ニ伴ヒ我方トシテモ充分ノ準備ヲ爲スノ要アリ此ノ點ニ付テハ海軍トシテモ萬全ノ策ヲ講シ居ル次第ナリ

河合顧問官 本官ノ最モ心配スル所ハ物資ノ關係ナルガニ體長期戰トナリタル場合トノ位ノ間ハ差支ナキ御考ナリヤ

星野企畫院總裁 昨日御説明申上ゲタル通り(企畫院總裁ハ其ノ前日樞密院定例參集ニ於テ物資動員計畫ニ付詳細ナル説明ヲ行ヘリ)數年前ヨリ我國ハ諸物資ノ自給自足ヲ覺悟シテ準備シ來レルガニ十一億ノ輸入ノ中十九億ハ英米ニ依存セル有様ナルガ故ニ經濟上ノ壓迫強化ノ場合條約第三條發動ノ場合ヲ考ヘテ萬全ノ策ヲ講ズル必要アリ鐵ニ付テテハ本年ノ生産高ハ五百二十萬噸ノ見込ナルガ最悪ノ場合ニモ四百萬噸ハ生産シ得ル見込ナリ現在軍備並ニ軍需ニ使用セルモノ百五十萬噸其ノ

他ハ生産力擴充並ニ民需官需ニ充當セルモノナルガ層鐵ガ來ラザル場合又ハ鐵材ノ輸入ナキ場合ヲ考慮シテ生産力擴充ニ手加減ヲ加ヘ民需官需ヲ制限スレバ左程窮境ニハ立たザル見込ナリ非鐵金屬ニ付テハ鐵ノ様ニハ參ラヌモ世界中ヨリ目下蒐集ニ務メ居ルヲ以テ之亦左程心配ハ要ラヌト思考ス最モ重大ナルハ石油ナルガ現在ハ多量ヲ米國ニ依存シ居リ殊ニ航空機用揮發油ハ殆ンド全部ヲ米國ヨリノ輸入ニ仰ギ居ル處國內ノ増産ヲ圖ルト共ニ米國以外ヨリ獲得スル方法ヲ講ゼザルベカラズ最近航空油ニ付テハ相當ノ「ストック」ヲ得タリ然レ共對米戰爭長期ニ亘ル場合鐵其ノ他ノ金屬類ノ場合トハ異リ日滿支三國ノ中ノミニテハ自足出來ザルニ依リ出來得ル限り速ニ蘭印又ハ北樺太等ヨリ石油獲得權ヲ確保スル必要アリ此ノ點ニ付テハ今回ノ獨逸側トノ話合ニ於テモ問題トナリタル點ナリ又目下蘭印ニ於テ平和裡ニ石油ヲ獲得スル交渉ガ行ハレ居ルモノト御了解願度シ

河合顧問官 昨日ノ御話ノ時ニモ石油ニ付テハ軍部ニ於テモ相當ノ準備アリト云フ意味ノコトヲ申サレタルガ軍部大臣ヨリモ御答辯願度シ

及川海軍大臣 海軍トシテハ相當長期ノ準備ヲ有ス又人造石油ニ付テモ目下施策中ナリ

東條陸軍大臣 陸軍ノ資材ニ付テモ相當ノ期間ハ堪エ得ル様準備アリ非常ナル長期戰トナレバ航空機用、機械化部隊用ノ油ニ付テ考慮スル必要アリ

B-0061



午後一時十分再開

二一六

石井顧問官 第三條ニ依リ一國ガ攻撃セララルトキハ直ニ參戰義務ヲ生ズルモノナリヤ何等カ此ノ點ニ付話合アリタルヤ

松岡外務大臣 交換文書中ニ「一締約國ガ條約第三條ノ意義ニ於テ攻撃セラレタリヤ否ヤハ三締約國間ノ協議ニ依リ決定セラレベキコト勿論トス」(在京獨逸大使來翰)トアルハ御質問ノ點ヲ明確ナラシムル爲本大臣ノ要求ニ依リ挿入シタルモノニシテ攻撃アリタルヤ否ヤニ付テ協議シ協議經マレバ自働的ニ共同シテ戰ハザルベカラザル處何時如何ナル方法ニ依リ援助スルヤハ締約國各々自主的ニ決定シテ協議スルコトトナル次第ナリ

石井顧問官 條文中ニ「直ニ」ト云フ字句モナキニ依リ外務大臣ノ説明ハ自分モ同感ナリ尙第四條ノ混合専門委員會ハ通常同盟條約ニアル軍事専門家間ノ協議ト解シ居リタルガ先程ノ外務大臣ノ説明ニ依レバ經濟的ノ問題モ右委員會ニ於テ協議スルモノノ如キ處此ノ點ニ付御説明ヲ承リ度シ

松岡外務大臣 本件ハ最初ハ條約ノ附屬秘密議定書中ニ規定スル案ニナリ居リタリ同案ニ依レバ陸海軍ノ混合委員會ヲ東京ニ一、伯林又ハ羅馬ニ一ヲ設ケ其ノ他經濟委員會ヲ設クルコトトナリ居レリ然レ共秘密議定書ハ作成セザルコトトナリ此ノ點ハ條約成立後兩國間ニ協議シテ決定致度キ處經濟問題ヲ扱フ委員會ハ必要ト思考スルニ依リ設置スルコトトナルベシト考ヘ居レリ

石井顧問官 本條約ニハ同盟條約ニ殆ンド必ズ存在スル單獨不媾和ニ關スル規定ナキ處右ハ何等カ特殊ノ思惑アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣 本件ハ一切話出ザリキ實ハ本大臣トシテハ先方ガ云ヒ出セバ之ヲ挿入スルモ差支ナシト思考シタルガ先方ガ之ニ觸レザル場合ニハ之ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタリ何トナレバ本條約ハ本大臣ノ考ニテハ戰爭ヲ防止スルコトガ目的ニシテ戰爭スルコトガ目的ニアラザルニ依リ開戰ヲ豫想スル單獨不媾和ノ規定ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタルコトガ一ノ理由ニシテ、他ノ理由ハ萬一戰爭ガ始マレバ此ノ點ハ戰爭初期ニ互ニ約束スレバ宜シト考ヘタルヲ以テ之ガ規定方ヲ申出ザリシ次第ナリ

石井顧問官 御意見御尤ト存ズ尙條約第一條ニ歐洲ニ於ケル新秩序ト云フコトガアル處何ヲ以テ歐洲ノ新秩序ト云フヤ判然タラシメザレバ日本ノ義務ガ判然タリ得ザルニ非ズヤ何カ此ノ點ニ付話合アリシヤ

松岡外務大臣 御尤ノ質問ト存ズルモ本大臣トシテハ新秩序ノ意義ハ前文ニテ充分現ハレ居レリト思考ス前文ハ當方ノ提案ニシテ獨逸側ハ一字ノ修正ヲモ申出ザリシモノナリ  
有馬顧問官 本條約ニ依リ日米戰爭ヲ避ケ度キハ本官モ政府ト同感ナルガ日米ハ宿命的ニ戰ハザルベカラザルモノナラバ今日ガ最モ良キ時期ト考フ但シ最モ心配ナルハ石油ノ缺乏ナリ海軍大臣ハ相當

二一七

B-0061



ノ準備アリト云ハレタルガ日米開戦スレバ一年、二年ヲ終局ニ達スルモノトハ思ハレズ殊ニ今日ノ戦争ニ於テハ極メテ多量ノ石油ヲ使用セザルベカラザル處人造石油等モ果シテ急場ノ間ニ合フモノナリヤ心配ニ堪エザル次第ナルニ付此ノ點重テ海軍大臣ヨリ御回答ヲ得度シ

及川海軍大臣 人造石油ハ未ダ着手シタル許リニテ中々急場ノ間ニ合フトハ申サレズ依テ平和的手段ニ依テ蘭印又ハ北樺太ヨリ獲得スル他ナク之ガ成功スレバ相當有效ナリ從テ蘇聯トノ國交調整ハ此ノ點ヨリ云フモ重要ナリト存ズ又一方海軍トシテハ長期戦ニナレバ油ノ使ヒ延シモ考ヘザルヲ得ズ有馬顧問官 ハイ、オクタン價ノ石油ハ充分間ニ合フ次第ナリヤ

及川海軍大臣 ハイ、オクタン價ノ石油ハ近年海軍ニテモ專門ノ研究機關ヲ設ケ海軍獨自ノ方法ニテ製造シ居レリ又相當ノ準備モアル次第ナリ

窪田顧問官 條約第三條ノ文字上ヨリ見レバ現ニ歐洲戦争又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ノ中ニハ蘇聯モ合マルモノト考フルガ蘇聯トノ關係ハ如何ナルモノナリヤ獨逸ト蘇聯トハ何等カ話合アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣 其ノ疑問ヲ避ケル爲第五條ヲ設ケタル次第ナリ尙本大臣ガ「スターマー」ニ對シテ蘇聯トノ間ニ何カ本條約ニ付話アリタルヤト訊ネタルニ對シ「スターマー」ハ否定的ノ回答ヲ爲シ居リタルガ本大臣ノ想像スル所ニテハ「スターマー」ハ「モスコ」通過ノ際蘇側ト何等カ話ヲ爲シ

居ルモノト考ヘ居レリ其ノ證據ト思ハルモノノ事實アルガ「スターマー」ハ八月二十三日ニ柏林ヲ出發セル處同日「リップントロップ」外相ハ來栖大使トノ會見ニ於テ何等本件ニ言及セザリシガ「スターマー」ハ二十四日ニ東郷大使ニ會見シタル際ニハ獨逸側ハ日本ト政治條約ヲ締結スル積ナル旨ヲ話シ居ルヲ以テ其ノ間「スターマー」ハ蘇聯當局ト何カ話ヲ爲セルモノト思考セラレ

窪田顧問官 米蘇接近ノ噂モ聞ク處本條約ハ之ヲ促進スルコトナル惧ナキヤ此ノ點ハ如何

松岡外務大臣 米蘇接近ニ付テハ外務省ニ於テモ各方面注意シテ真相ノ把握ニ努メ居ル處今日迄確實ト認めラレル情報ニハ接シ居ラズ本大臣ハ未ダ具體的ノ何物モナシト考ヘ居レリ尙「スターマー」ハ日蘇ノ國交調整ノ成功ニ付テハ極メテ明白ニ其ノ可能性ヲ述ベ獨逸ノ斡旋ヲ申出タル次第ニシテ此ノ點ハ交換文書ニモ記載サレタル通ナリ

石塚顧問官 條約ノ條文トシテハ本官ニ於テ異存ナシ但シ獨逸トノ關係ニ付テハ過去ノ實績ニ照シ百「パーセント」信用ヲ置ク譯ニ行カズ防共協定及文化協定締結ノ際ニモ特殊ノ事項ニ付テハ兎モ角全面的ノ提携ハ不可ナリトノ議論アリキ此ノ點ハ政府ニ於テモ充分御留意相成テ條約實施ニ遺憾ナキヲ期セラレ度シ

清水顧問官 本條約ノ調印者ハ誰ナリヤ

松岡外務大臣 「リップントロップ」「チアノ」及來栖大使ノ三名ナリ

清水顧問官 本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルルコトトナリ居ル處之ハ憲法上差支ナシト思ハルルヤ  
松岡外務大臣 斯クノ如キ條約ハ前例モ多クアリ調印前ニ樞密院ニ御諮詢相成リ御裁可アルモノナル  
ニ依リ憲法上ノ問題ハ生ズル俱ナシ

清水顧問官 聞ク所ニ依レバ重慶ニハ未ダ獨逸人ノ技師ガ數名居ルト云フガ眞實ナリヤ  
東條陸軍大臣 斯カル情報ハアルモ眞相不明ナリ

清水顧問官 我南洋委任統治地域ニ對シテモ何等カノ代償ヲ支拂フコトトナリ居ル處如何ナル譯ナリ

松岡外務大臣 此ノ點ニ付テハ獨逸側ハ目下委任統治トナリ居ル舊獨逸領ハ全部返還ヲ受クル建前トナ  
リ居リ與國タル日本ノミガ之ヲ返還セザルコトヲ認ムルハ原則ノ問題トシテ受諾シ得ズ從テ代償ヲ  
得テ日本ニ讓渡シタル形式ヲ採リ度シト主張セリ最初ハ相當ナル代償 *equivalent* ト云フ字句ナリシ  
ヲ本大臣ノ主張ニ依リ *Goa* *Swat* ト云フコトニシタルモノニシテ先方ハ此ノ代償ハ全然「ノミナル」  
ノモノニテ可ナリ例ヘバ珈琲六袋ト云フ例モアリト云ヒ居リタル位ニテ極メテ輕キ意味ナリ

清水顧問官 本官ノ考ニテハ委任統治ハ今更獨逸ヨリ讓渡ヲ受クル必要ナキモノト思ハル

松岡外務大臣 自分ノ考フル所ニ於テハ立博士其ノ他有力ナル國際法學者ノ説ノ如ク領土ノ割讓ハナ  
カリシモノト見ルノガ正シト思考ス從テ本大臣ハ三年以來「ヴェルサイユ」條約ヲ獨逸ガ實際上破棄

シタル以上日本ノ委任統治ハ軍事占領ノ繼續ト見ルノガ正シク從テ獨逸ヨリ讓渡ヲ受ケテ事態ヲ明  
瞭ニスル必要アリト考ヘ居レリ

南顧問官 伊太利ハ本條約ニ何時承認ヲ與ヘタリヤ

松岡外務大臣 先程モ御答シタル通り伊太利ハ二十五日ニ在京大使ヲ本大臣ノ許ニ派遣シテ同意ヲ表  
明シ來レリ其ノ前ニ「リッペントロップ」外相ガ羅馬ニ於テ伊太利側ノ同意ヲ取付ケタルモノナリ

南顧問官 然ラバ十九日ノ御前會議ノ際ニハ伊太利ハ同意スルモノトモセザルモノトモ不明ナリシニ  
本件ヲ御前會議ニ附シ御裁可ヲ仰ギタルハ時期頗ル尙早ニアラズヤ

松岡外務大臣 獨逸側ハ最初ヨリ伊太利ノ同意ヲ確實ニ得ラルルコトヲ繰返シ述べ居リタルノミナラ  
ズ御前會議ニテ審議シタルハ日獨間ニ一應纏リタル案ニ依リ日獨伊三國間ニ條約ヲ締結スル方針ヲ  
附議シタルモノナルニ依リ何等差支ナカリシモノト考フ

南顧問官 大東亞ノ範圍ニ付テハ明白ナルコトヲ決メ居ラザルニアラズヤ

松岡外務大臣 交渉ニ當リ隨時話ヲ爲シ記録ニ留メタリ

南顧問官 日英間ニ紛争發生シタル場合ニ付特ニ交換文書アルハ如何ナル理由ナリヤ

松岡外務大臣 英國ハ既ニ歐洲戰爭ニ參戰シ居ルヲ以テ本條約第三條ノ場合ニ當嵌ラザルモ日本トシ  
テハ日英戰爭ガ絶對ニナシトハ云ヒ得ザルニ依リ特ニ此ノ點ヲ獨逸側ノ好マザリシニ拘ラズ明確ニ

セシメタリ

南顧問官 本條約ハ日本ヨリ言出シタルモノナリヤ獨逸ヨリ言出シタルモノナリヤ

松岡外務大臣 獨逸ヨリ言出シタルモノナリ

南顧問官 獨逸ガ斯カル提議ヲ爲スニ至レルハ對英作戦ニ失敗シタル爲ニアラズヤ

松岡外務大臣 對英作戦ノ長引キタルコトモ一ノ理由ナルヤモ知レザルモ右ガ全部ニハ非ズ數十年ノ長キ眼デ見テ獨米ノ葛藤避ケ難シト見タル爲ナラント思ハル

南顧問官 本條約ニ依リ米國ヲ牽制スルコトハ結構ナルガ米獨提携ノ危險絶對ニナキヤ

松岡外務大臣 米獨提携ノ可能性モ絶對ニナシトハ思ハレズ然レ共日米關係ノ改善ニハ獨系米人ノ米國ニ於ケル勢力ヲ無視出來ザルニ依リ此ノ點ニ於テモ本條約ノ價值アリト思考ス

南顧問官 石油ノ問題ハ先程ノ各大臣ノ回答ヲ承ルモ壁ヲ隔テテ物ヲ聞クガ如ク一寸モ安心出來ズ今少シ明瞭ナルコトヲ承リ安心セシメラレ度シ

企畫院總裁、陸海軍各大臣 先程モ御答シタル通り陸海ハ相當貯藏アリ海外ヨリノ平和的獲得モ有望

ナリト河合、有馬南顧問官ニ對スル回答ヲ繰返シ述ブ

南顧問官 一方ニ於テ日支事變ガ繼續シ一方ニ於テ日米戰爭ガ勃發セバ日本ノ財政ハ如何ナルヤ大藏大臣ニ承リ度シ

三三三

河田大藏大臣 財政ガ窮屈ニナルコトハ勿論ナリ結局國民ノ貯蓄ヲ増進シ政費節約ヲ圖ル他ナシ

南顧問官 次ニ日蘇關係ニ付承リ度シ萬一日本戰爭ガ起リタル場合蘇聯ハ恰モ歐洲戰爭前ニ英佛ト獨

トヨリ引張風トナリタルガ如ク日米兩國ヨリ提携ノ手ヲ差延スコトナルベシト思ハル故ニ日米關係ヲ考フルニハ先ヅ蘇聯トノ國交調整ヲ行ヒテ後此ノ條約ノ交渉ヲ爲スコトハ出來ザリシモノナリ

ヤ何故ニ蘇聯トノ交渉ヲ後廻シニシテ獨逸ノ言分ニノミ從フモノナリヤ

松岡外務大臣 蘇聯トノ國交調整ニ付テハ前内閣時代ニ中立條約ヲ提議セリ本大臣モ就任以來採リテ

入レテ見タルガ蘇側ハ前内閣ノ提議ヲ受諾スル條件トシテ「ボーツマス」條約ノ再檢討、北樺太利權ノ回收等殆ンド拒否的ノ條件ヲ附シテ受諾ヲ回答シ來レルガ如キ有様ナリ依テ本大臣ハ蘇聯トノ

國交調整ハ獨逸ヲ利用スル他ナシトノ結論ニ達シ本條約ニ對スル獨逸側ノ提議ヲ受諾セル次第ナリ

南顧問官 米國ハ歐洲戰爭ニ參加セズト云フコトヲ「スターマー」ハ外務大臣ニ申シタト云フコトナ

ルモ大統領選舉後ハ如何ナルコトニナルヤモ知レズ中立立法ヲ改正シテ極力英國ヲ援助スルコトニナ

ルヤモ圖ラレズ其ノ場合ハ米國ハ獨逸ヲ攻撃シタルモノトナルヤ否ヤ

松岡外務大臣 米國ノ措置ガ攻撃トナルヤ否ヤハ其ノ時ノ狀勢ニ依リ判斷スル他ナシ此ノ點ニ付テハ交渉中獨逸側ハ第三條ニ公然ト又ハ陰密ニ(Openly or covertly)攻撃セラレタル云々ト云フコト

ニ致度シト申出タルニ對シ當方ヨリ陰密ニ攻撃スルトハ例ヘバ米國ガ英國ニ驅逐艦ヲ讓渡スルガ如

三三三

B-0061

キコトヲモ含マルル俱アルニ依リ斯カル字句ハ削除シタシト主張シタル際先方ハ右字句ハ寧ろ日本側ノ利益ノ爲ニ挿入スルモノニシテ例ヘバ米國艦隊ガ新嘉坡ニ入港シタト云フガ如キ場合ヲ陰謀ニ攻撃シタルモノト云フベク驅逐艦護渡ノ如キハ入ラズト説明シタル経緯モアリ

南顧問官 獨逸側トノ話合ノ際ニ蘇聯ヲシテ援將政策ヲ拋棄セシムル爲ニ盡力スルト云フコトニ付念ヲ押サレタリヤ

松岡外務大臣 此ノ點ハ本大臣トシテモ充分考慮シ居リ獨逸ヲシテ蘇聯ヲ通ジテ重慶ヲ和平ニ導カシムルコトヲ考ヘ居ルモノナルガ之ヲ過早ニ云ヒ出スコトハ獨逸ニ脚ヲ見ラレ百害アリテ一利ナキ次第ナレバ最初八月初旬ニ「オット」大使ニ會見ノ際先方ヨリ斯カル趣旨ノ事ヲ申出シタル際モ日本ハ支那事變ハ獨力ニテ片附クル積リナリト申聞置キタル次第ナリ素ヨリ今後ハ本條約ヲ十二分ニ活用シテ日蘇國交調整、支那事變收拾ノ促進ヲ圖ル覺悟ナリ

奈良顧問官 質問ナシ

荒木顧問官 ヨリ軍ノ素質、體力、健康状態殊ニ肺結核ノ豫防等ニ付質問アリ陸海軍大臣ヨリ各回答案

松井顧問官 質問ナシ

菅原顧問官 五ノ點ニ付質問致度シ(一)ハ外務大臣ハ先程秘密議定書ト云フコトヲ申サレタルガ秘密議定書ヲ作成スルト云フ議ガアリシヤ(二)ハ本條約ト日獨伊防共協定トノ關係如何(三)ハ本條約ハ

三國條約ナルガ獨伊ノ關係ハ極メテ緊密ナルヲ以テ條約ノ解釋等ニ付紛議ヲ生ジタル場合常ニ二對一トナル俱ナキヤ(四)ハ伊太利トノ關係ニ付テハ何等文書ノ上ニ殘ス必要ナキヤ(五)ハ對米戰爭勃發シタル場合ノ軍事上ノ覺悟ニ付テハ先程説明アリタルモ最モ心配ナルハ財政上ノ問題ナリ此ノ點ハ大藏大臣ニ於テモ充分ナル覺悟アリト存ズルガ如何

松岡外務大臣 (一)交渉中ニ秘密議定書作成ノ議出タルモ秘密議定書ノ内容ハ日本側ノ要求ノミヲ入ルル片務的ノモノトナリ之ヲ完全ニスル爲ニハ時日ヲ必要トスルノミナラズ伊太利ノ同意ヲモ取付クル必要アリタルニ依リ秘密議定書ヲ作成ヲ避ケ本大臣ト在京獨逸大使トノ間ニ文書ヲ交換シテ秘密議定書ニ代フルコトナリタル次第ナリ(二)防共協定ハ其ノ儘存置ス日本トシテハ防共ト云フ大方針ハ蘇聯トノ關係如何ニ拘ラズ之ヲ堅持シ行カザルベカラズト思考ス(三)獨伊ノ關係ハ成程緊密ナルモ伊太利ノ日本ニ對スル感情ハ獨以上ノモノアルヲ以テ御心配無用ト思考ス(四)別ニ文書ヲ要セザルモノト考フ伊太利大使ハ極メテ明白ニ伊太利政府ノ同意ヲ申出來レリ

河田大藏大臣 菅原顧問官ノ御質問ノ第五點ニ付テハ極力國民ノ負擔増加ヲ防グ措置置シ度キ所存ナリ

松浦顧問官 本條約ノ趣旨トスル所ハ日米關係ノ惡化ヲ防止スルニ在リ本官モ最モ之ヲ希望スル次第ナルガ不幸ニシテ最惡ノ場合ガ起リタル時ニ處スベキ準備ハ之ヲ充分整ヘ置カレ度シ

潮顧問官 最悪ノ場合ニ於ケル國內情勢食糧問題等ニ付質問アリ、企畫院總裁ヨリ回答ス  
林顧問官 條約ノ主眼トスル點ハ對米關係ナルガ對蘇關係ハ此ノ際最モ慎重ニ考慮スル必要アリト存  
ズ外務大臣ノ御説明ニ依レバ對蘇關係ニ付樂觀的ノ考ヲ有シ居ラルルヤノ印象ヲ得タルガ本官ノ有  
スル情報ニ依レバ日蘇間並ニ獨逸ノ關係ノ將來ニ付相當惡キ材料モアリ例ヘバ昨年獨逸不可侵條  
約ガ締結セラレタル際「スターリン」ガ共產黨員ニ與ヘタル訓示ノ内容ニ付自分ノ有スル確實ナル  
情報ニ依レバ「スターリン」ハ蘇聯ガ今度獨逸ト提携シタルハ西歐赤化ノ一ノ手段ナリ又之ニ依リ  
決シテ東進政策ヲ拋棄シタルモノニアラズ時期至ラバ積極的ニ出ル積リナリト述ベタル由ナルガ之  
等ノ點ニ付テハ外務大臣ハ如何御考ナリヤ

松岡外務大臣 日蘇國交調整ガ爾ク容易ナリトハ自分モ考ヘ居ラズ唯獨逸ハ蘇聯ニ對シテ相當ノ壓力  
ヲ加ヘ得ルコトハ之ヲ認メザルベカラズ自分ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ昨年蘇聯ガ何故ニ英佛  
ヲ離レテ獨逸ト提携スルニ至レリヤト云フニ其ノ動機ノ最モ重要ナルハ「ヒトラー」ハ「スター  
リン」ニ對シテ若シ獨逸側ノ要求ガ容レラレザレバ獨逸ハ蘇聯ヲ攻撃スベシト申傳ヘタリト云フコ  
トナリ之等ヨリ判斷シテ日蘇國交調整ニ獨逸ヲ斡旋セシムルコトハ相當有效ナリト考ヘ居レリ  
深井顧問官 條約第三條ノ場合即チ日米戰爭ノ場合ニ獨逸ハ如何ナル軍事上ノ援助ヲ日本ニ與ヘ得ル

松岡外務大臣 右ハ交渉ノ際ニモ論議セラレタルガ獨逸ハ第三條ノ事態發生以前ニ於テモ新兵器等ヲ  
日本ニ供給スベシト申シ居リ又日米戰爭勃發ノ場合ニハ大西洋方面ニ於テ米國ヲ牽制スルコトニナ  
リ居レリ

東條陸軍大臣 蘇聯トノ諒解ノ下ニ優秀ナル軍用器材ノ供給ヲ受クルコトガ最モ重要ナル援助ナリ  
及川海軍大臣 大體陸軍ト同様ナリ

深井顧問官 蘇聯ニ對スル關係ニ於テ獨逸ガ蘇聯ヲ牽制スルトハ如何ナル意味ナリヤ斯カル事ハ獨逸  
不可侵條約ニ正面ヨリ反スルモノニアラズヤ

東條陸軍大臣 條約上ハ其ノ通ナルガ實際ノ軍事上ノ動キヨリ云ヘバ獨逸ハ蘇聯ヲ牽制シ得ルモノナ  
リ現ニ獨逸ハ對英作戰ヲ行ヒツツアルモ其ノ陸軍ノ大部分ヲ機械化部隊ト共ニ國內ニ保有シ居リ之  
ガ軍事的ニハ蘇聯ヲ牽制シ居ル次第ナリ

●深井顧問官 外務大臣ハ日獨間ノ相互信頼ト云フコトヲ申サレタルガ獨逸側ノ昨年ノ獨逸不可侵條約  
締結ノ際ノ態度ハ不信ト云フノ外ナシ昨年九月阿部兼攝外相ガ本院ニ於テ外交經過ヲ説明シタル際  
當時ノ深田外務次官ガ平沼内閣ニ於テ獨逸協定ガ日獨防共協定ノ秘密協定ニ違反セル點ヲ指摘シテ  
獨逸ニ對シ抗議ヲ提出セル旨ヲ述ベタル處右抗議ノ結果ハ如何ナリ居ルヤ

松岡外務大臣 本大臣ノ聞ク所ニ依レバ右抗議ガ果シテ先方ニ通ジ居ルヤ否ヤ疑ハシク恐ラク獨逸側

ヨリハ何等ノ回答ナカリシモノト思考ス  
深井顧問官 對外國係ニハ感情ヲ交ヘルコトハ禁物ニシテ外交ハ他ク迄現實的ニ行ハザルベカラズト  
思考スル處本條約ノ前文ニ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルトアルガ「ヒトラ」ノ常ニ云フ所ハ弱  
肉強食ハ自然ノ法則ナルカノ如キ感觸ヲ與フルガ獨逸側ハ果シテ此ノ前文ノ趣旨ヲ正當ニ理解シ居  
ルヤ

松岡外務大臣 我外交ノ使命ハ皇道ノ宣布ニ在リ利害得失ノミニ依リテ動クモノニアラズ弱肉強食ノ  
如キ思想ハ斷ジテ之ヲ排撃スベキモノト考フ

深井顧問官 日米戦争ヲ不可避トスレバ此ノ際獨逸カ英米カ孰レカニ外交ノ重點ヲ置カザルベカラズ  
ト云フコトハ理解出來ルモ本條約締結ノ結果ハ或ハ日米戦争ヲ早メルコトナルヤモ知レズ總理大  
臣ハ最悪ノ場合ニ於ケル軍需品、一般物資ノ缺乏ノ思想ノ惡化等ニ對處シテ之ヲ切抜ケ得ル自信アリ  
ヤ否ヤ覺悟ヲ承リ度シ

近衛總理大臣 本條約ノ根本ノ考ヘ方ハ元ヨリ日米ノ衝突ヲ回避スルニ在リ然レ共下手ニ出レバ米國  
ヲツケ上ラセル丈ナルニ依リ毅然タル態度ヲ示ス必要アリト思考ス萬一最悪ノ事態ヲ生ジタル場合  
ニハ政府ハ外交内政ヲ通ジテ非常ナル覺悟ヲ以テ施策セザルベカラズト考ヘ居レリ先日本大臣ガ參  
内本件ヲ上奏致シタル際 天皇陛下ニ於カセラレテモ非常ナル御決心ヲ有シ遊バサルコトヲ伺ヒ

定ニ恐懼感激ニ堪エズ本大臣トシテ身命ヲ賭シテ本條約ノ遺憾ナキ運用ヲ期シ度シト考ヘ居レリ  
二上顧問官 外交上、經濟上ニ付テハ大分質疑應答アリタルニ依リ、自分ヨリハ條約其ノモノニ付疑問  
ノ點ヲ質シ度シ先形式ノ點ニ付テ茲ニ配布ノ書類ノ中何々ガ御諮詢ニナリ居ルヤ不明ナリ之等ノ文  
書ハ日本文ガ本文ナリヤ交換文書ノ方モ内容ヨリ見レバ國際約束ト思ハルルガ之ニ付テハ御諮詢ナ  
キ次第ナリヤ

松岡外務大臣 御諮詢ニ相成リ居ルハ條約案ノミニテ他ハ參考ナリ條約ノ本文ハ日本文、獨逸文及伊  
太利文トナル等ナルモ差當リ英文ノモノニ署名スルコトトナリ居レリ

松本條約局長 附屬ノ交換文書ハ條約ト同様ノ效力ヲ有スル所謂交換公文トハ内容竝ニ形式(例ヘバ  
番號ヲ附ス)ニ於テ異リ居リ所謂國際約束トハ認メ難キモ條約ノ解釋及松岡大臣ト「オット」大使ト  
ノ意見ノ一致シタル點ヲ記載セルモノニシテ極メテ重要ナル文書ト認メテ參考トシテ上奏案ニ附屬  
セシメタル次第ナリ

二上顧問官 差當リ英文ニ署名スルコト云フガ如キハ異例ニシテ斯カル手續ガ許サルルトハ思ハズ又交  
換文書ノ内容ハ國際約束ナルヲ以テ之亦御諮詢ノ客體トスベキモノト思考ス  
原議長 之等形式ノ問題ニ付テハ後刻懇談會ヲ開催スルコトト致度シ

(審査委員會終了後政府側退席シ懇談會ヲ開キタル結果條約案文ノミヲ御諮詢ノ客體トスルコト

B-0061

竝ニ差當リ條約案日本文ノミヲ審議シ英文ニ署名シ後日獨伊文トスリ代フル點ハ默過スルコトニ決定セル趣ナリ

三三〇

二上顧問官 條約第三條ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザルトアルハ不正確ナル言現シ方ニテ歐洲戰爭又ハ日支紛争ノ雙方ニ參入シ居ラザル一國ガ攻撃シタル場合ニハ第三條ガ發動スル様ニモ取レル處其ノ點如何次ニ混合專門委員會トハ先程ノ外務大臣ノ説明ニ依レバ軍事ト經濟トノ混合ノ様ニモ取レルガ之ハ三國ノ混合ノ意味ニアラズヤ更ニ第五條ト第三條トヲ合セ考フルニ獨逸ハ蘇聯トノ間ニ不可侵條約ヲ有スルヲ以テ日本ガ蘇聯ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニモ獨逸ハ蘇聯ヲ攻撃スルコト能ハズ之ニ反シテ獨逸ガ蘇聯ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニハ日本ハ獨逸ヲ援助スル爲メ蘇聯ヲ攻撃セザルベカラズ從テ片務的ノ規定ナラズヤ

松岡外務大臣 二上顧問官ノ御質問ノ第一點ハ用語ノ問題ニテ實際ノ解釋上ハ疑義ヲ生ズル餘地ナシト思考ス第二點ハ勿論三國ノ混合委員會ノ意味ナリ第三條ガ第五條ノ結果日本ニ片務的ナリトノ議論ハ本條ノ政治的意味ヲ没却シタルモノニシテ蘇聯ガ獨逸ヲ攻撃スルガ如キ場合ニハ獨逸間ニ現存スル政治的狀態ハ重大ナル變革ヲ受クルモノニシテ斯カル場合ニ日本ノ處スル道ハ本條ノ規定ノ範圍外ナリト思考ス本條ノ趣旨ハ差當リ本條約ガ蘇聯ヲ目標トシ居ラザルコトヲ明示シタルモノナリ

眞野顧問官 質問ナシ

大島顧問官 大東亞ノ範圍ニ付テハ何等カ話合アリシヤ

松岡外務大臣 勿論話合アリシコトハ本日午前中説明シタル通ナリ

小幡顧問官 日本ガ日支事變ヲ解決シ居ラザル此ノ際ニ當テ歐洲戰爭ニ米國ガ參戰シタル場合ニ獨伊ヲ援助スル義務ヲ負フコトハ極メテ重大ナル義務ヲ負フモノナルニ反シ日米ガ開戦スルト云フ可能ニハ少シト思ハル依テ本條約ハ極メテ片務的ナルモノトナラザルヤ

松岡外務大臣 米國ガ歐洲戰爭ニ參加スルヤ否ヤ又日米戰爭ガ勃發スルヤ否ヤハ雙方五分五分ノ可能性アリト見テ差支ナシ依テ片務的ノモノトハ思考セズ

竹越顧問官 本條約締結ノ結果最悪ノ場合ヲ生ジタルトキ獨逸ハ如何ナル援助ヲ日本ニ與ヘ得ルヤ又日本海軍ガ獨伊ヲ援助スル場合ニハ如何ナル援助ヲ爲スヤ

松岡外務大臣 如何ナル援助ヲ與ヘ得ルヤ等ノ問題ハ混合委員會ニテ充分研究セザルベカラズ鈴木審査委員長 本條約ノ成立ト否トニ拘ラズ日米戰爭ハ不可避ト考フルニ依リ米國海軍ノ擴張ヲ充分監視シテ之ニ相應スル準備ヲ怠ルベカラズ

及川海軍大臣 差當リ速戰即決デ米國ニ當レバ充分勝算アリ將來ニ付テハ着々各般ノ擴張計畫ヲ目論ミ居ル次第ナリ

石井顧問官 交換文書ノ最後ノモノヲ見ルニ我委任統治下ノ南洋群島ハ依然日本ノ屬地トスルモノニ

三三二

S. 2.1.0.0. - 33 463

S. 2.1.0.0. - 33 462

B-0061

對シ代價ヲ支拂フベキ旨記載シアリ之ニ對スル松岡大臣ノ説明ニ依レバ「ヴェルサイユ」條約ハ既ニ消滅シタルモノナルニ依リ南洋群島ハ日本ハ今尙軍事占領ヲ繼續セルモノニシテ從テ日本ハ獨逸ヨリ代價ヲ支拂ヒテ之ヲ讓受クル必要アリトコトナル處委任統治地域ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ五大國ニ讓渡セラレタルモノヲ日本ガ獲得シタルモノト見ルベク既ニ日本ノ屬地ナリト解スルヲ以テ正シト自分ハ思考スルニ依リ獨逸大使ノ口頭宣言ニハ自分ハ贊意ヲ表シ兼ヌ尤モ本問題ハ御諮詢外ノ問題ナルヲ以テ唯御參考迄ニ自分ノ意見ヲ述ブレ止メ置キタシ

松岡外務大臣 立博士等有力ナル國際法學者ノ意見ハ委任統治ハ領土ノ讓渡ニ非ズト爲シ居レルガ故ニ法理論ヲ別トシテ實際政治ノ問題トシテハ一應獨逸ヨリ何等カノ方法ニテ割讓ヲ受クル方可ナリト云フコトガ自分ノ三年以來ノ考ナリ聞ク所ニ依レバ三年位前ニ日本海軍ヨリ在伯林ノ海軍武官ヲ通ジテ獨逸ニ對シ一定ノ代價ノ下ニ割讓方申出タル趣ナリ

石井顧問官 本問題ニ付テハ立博士トモ意見ヲ交換シタルコトアリ立博士ノ意見モ委任統治ガ領土ノ割讓ニアラズト云フ丈デ獨逸ガ五大國ニ讓渡シタル點ニ付テハ爭ナキ様思考ス從テ今更日本ガ獨逸ヨリ代價ヲ支拂ヒテ割讓ヲ受クルガ如キハ本官ノ同意シ難キ所ナリ

三土顧問官 今朝來ノ質疑應答ヲ聞イテ居レバ米國トノ戰爭トナリタル場合ノコトヲ主トシテ論議セラレ居ル様ナルモ本條約締結後直ニ米國ノ我國ニ對スル經濟壓迫ハ一層加重セララルモノト思考ス

其ノ場合ニ於ケル我國民生活ノ問題ハ重大ナル問題ナリト思ハル處之ニ付テハ充分ナル用意出來居レリヤ又日本人ハ兎角此ノ種ノ條約ガ出來ルト獨逸カブレトナリ反米運動等ヲ試ムルモノ出デ來ル惧アリ斯カル點ハ嚴ニ取締リ頂キタシ

星野企畫院總裁 國民生活ノ問題ハ政府トシテ最モ關心ヲ有シ居リ之ガ對策ニ付テハ萬遺憾ナキヲ期シタシ

近衛內閣總理大臣 排米運動ヲ取締ルコトハ極メテ同感ナレバ嚴重實施致シタシト存ズ

午後七時三十分政府側退場

B-0061



別紙甲號

日獨伊三國條約締結ニ關スル件 (近衛總理大臣極密院  
委員會議上ノ挨拶文案)

御承知ノ通り支那事變ハ未ダ解決セザルニ當リ、近來米國ノ我國ニ對スル態度ハ相當強硬ヲ加ヘテ居  
リマスガ米國ノ態度ガ硬化スルニ連レマシテ重慶政府其ノ他日本ニ敵意ヲ有スル各國政府ノ態度ニモ  
影響シ我國ノ國際的地位ハ益々困難トナリ前途誠ニ憂慮ニ堪ヘザル次第デアリマス。此ノ難局ヲ打開  
致シマス爲ニハ我國ノ國際的立場ヲ強化スルコトガ必要デアリマスガ其ノ方法ハ現在ノ環境ニ於テ我  
方ト利益ノ一致スル國家トノ提携ヲ強化スルコト以外ニハナイト思ヒマス。然ルニ獨伊ハ米國ノ參戰  
ヲ防止スルコトヲ希望シ、我國ハ米國トノ危機回避ヲ希望スル點ニ於テ利害ノ一致ヲ見テ居ルノデア  
リマス。依テ政府ハ組閣以來銳意此ノ方向ニ向ツテ努力ヲ續ケテ來タノデアリマスガ、最近ニ至リ遂  
ニ御手許ニ差上ゲマシタルガ如キ條約案ニ依リ我國ガ今次歐洲戰爭ニ參加スルコトナクシテ右兩國ト  
ノ提携ヲ強化シ得ルノ機運ニ達シマシタノデ右ニ基キ兩國ト條約締結方御裁可ヲ仰ギ度イト存ジテ居  
リマス。而シテ本案件ハ固ヨリ平和ヲ目的トスルモノデアリマスガ最悪ノ事態ノ發生ヲモ覺悟スル必  
要ガアリマスノデ我國運ノ消長ニ關スル未曾有ノ重大案件ト申スベキデアリマス。依ツテ極メテ慎重  
ニ審議ヲ盡シ御決定ヲ仰ギ度イト考ヘ居リマス次第デアリマス。本案件ノ本日迄ノ經過竝ニ獨、伊兩

二三五

S 2.1.0.0. - 33

466

B-0061

國トノ間ニ締結セントスル條約案ニ付キマシテハ之ヨリ外務大臣ヨリ詳細説明致シマス。

三三六

S 2.1.0.0. - 33 467

別紙乙號

日獨伊三國條約締結ニ關スル外務大臣説明案

甲、經 過

本大臣ハ七月下旬、現内閣ガ成立致シマシテ以來、獨伊トノ政治的提携ヲ強化シタイト思ヒマシタガ、當時、獨逸ハ佛蘭西ヲ席捲シ、英本國ノ如キモ、旬日ヲ出デズシテ、容易ニ征服シ得ルト云フキウナ氣勢デゴザリマシテ、獨逸ニ於ケル、我國トノ提携熱ハ一般ニ極メテ低カツタノデアリマス。然シナガラ獨伊ハ、今英本國ヲ屈服サスコトガ出來マシテモ、其ノ後ニ於テ、英帝國全部ノ崩壞戰ハ事シカク容易デハゴザリマセヌ上ニ、更ニ米國ト英帝國ノ殘存勢力トガ結合シテ出來ルトコロノアングロ・サクソン王國又ハプロックトモ云フベキモノト今次ノ戰爭ニ依ツテ強大ヲ加ヘタルリ聯邦ト云フニ大勢力ト對抗シナクレバナラヌコトハ明瞭デアリマス。其ノ場合地理的ニ惠マレタ地位ヲ占メ且世界無比ノ國體ノ下ニ優秀ナル民族ヲ持ツ我國ノ力ハ偉大ナルモノガアリマスノミナラズ、現在ト雖モ或意味ニ於キマシテ皇國ハ實ニ世界ノ天秤ヲ左ニデモ右ニデモ上下サス丈ノ力ヲ持ツテ居ルト云フノガ不肖本大臣ノ抱ケル見透シト見解デアリマス。ソツカト申シマシテモ總理大臣ノ云ハレタ様ニ日本國際情勢ハ極メテ困難ナノデアリマス。而シテ此ノ事位ハヒトラー總統及少クトモ

三三七

S 2.1.0.0. - 33 468

B-0061

其ノ周圍ノ者ダケハ認識シテ居ラウト想像シマシタ、否ソノ容子ガ多少類ハレタノデゴザリ  
マス。彼等ハ當時ニ於テモ我國トノ提携ニ相當ノ熱意ヲ持ツテ居タヤウデアリマス。根本ニカヤウ  
ナル考ヲ持ツテ居リマシタガ故ニ私ハ諸般ノ情況上一應ハ急ギタイト云フ心持ノ中ニモ固ヨリ下  
ニ出ル要モナク、又已ムヲ得ナケレバ英本國屈服後トナツテモカマワス、若シサウナツタラバ、  
愈々以テ緩ツクリト構エヤウト決意致シテ居ツタデアリマス。何レニ致シマシテモ、當時焦ルト  
見ラレヤウナ手ヲ我方カラ出シマスルコトハ外交上禁物デアツタノデゴザリマス。

我が獨自ノ立場ヲ堅持シ、必ズシモ獨伊ト結ブノ要ナシ、若シソレガ我國ノ存立ト使命遂行上、必  
要又ハ便利デアラナラバ、米ト結び、或ハ英ヲ救フコトヲモ敢ヘテ辭セスト云フ姿勢サヘ示シテカ  
カラナケレバナラヌト信ジタデアリマス。ソレカラ、何ヨリモ先ツ獨伊初メ世界ニ向ツテ本件ニ  
關シ斥候戰ヲ始メナケレバナラナカツタデアリマス。本大臣ハ就任前後ヨリ遲滞ナク之ヲ開始シ、  
少シク容子ガ知レマシタノデ、一步ヲ進メ本大臣ハ八月一日オット大使ヲ御茶ニ招キテ、樞軸強化  
ガ我朝野ヲ通ジテハ傾向ナルハ貴大使モ御承知ノ通りデアルガ、ソレガ物ニナルニハマダマダ容易  
デハナイ、廟議モ未ダ具體的ニ確定シテハ居ナイト云フ趣旨ヲ告ゲマシタ上、支那事變ハ日本獨力  
ニテ其内片付ケル考デアラカラ、別ニ獨逸ニ於テ意ヲ煩ハサレナイデヨロシイト申述ベマシテ、一  
應大使ノ仲介セントスル口吻ヲ押へ、我建國以來傳統タル八紘一宇ノ大理想ヲ實現セントスル決意

ノ真剣ナル事ト、先ヅ之ヲ大東亞共榮圈内ニ於テ試ミントスルモノナル旨ヲ説キ、次デ、タトヘ英  
本國ガ間モナク屈スルトモ、ソレハ大英帝國崩壞ノホソノ初マリナルニ止マリ、決シテ終ニアラザ  
ル所以ヲ申聞ケ(大使モ同様ノ事ヲ自ら進ンデ申シテ居リマシタ)右二ツノ大局的觀點ヨリシテ、  
獨モ亦日本トノ提携ノ可否ヲ決スベキデアルト結論シ(一)大東亞圈内ニ對スル前述ノ日本ノ理想實現  
ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、如何ナル事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ルカ又助ケル考ナルカ、又ソノ  
圈内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求ムルカ、(二)日米關係ニ就キ獨逸ハ如何ニ考フルカ、又何ヲナシ得ルカ、  
(三)日米關係ニ就キ如何ニ考フルカ又何ヲナシ得ルカトテ、以上三項ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急  
ヒトラ一總統トリッペンツロップ外相ニ架電シテ、其返事ヲ得ラレタシト告ゲマシタ。其ノ際自分ハ  
大使ニ太平洋問題ノ重要性ヲ述ベ日米ガ争フカ否カニ人類ノ將來ガカカツテ居ルコトヲ説イタノデ  
アリマス。

「オット」大使ハ獨逸ハ米國ノ參戰ヲ希望セズ戰後ノ米國トノ關係改善ニ努メ度イト思フト申シテ居  
リマシタ。  
右ニ對スル返事ハ容易ナラズトシテ、獨大使ハ溢ツテ居リマシテ、私モ亦容易ニソノ返事ハ來ナイ  
デアラウト豫想シマシタトコロ、果シテ來マセンデシタ。(尙八月十七日在京伊太利大使ヲ招致致シ  
テ「オット」ニ對スルト同様ノ質問ヲ發シテ置キマシタ)私ハ態ト催促セズニ放ツテ置キマシタ。

然ルニ、リッペンツロフ外相ハ其東洋問題ニ關スル懷刀デアルト言ハレテ居リマスル、ハインリッヒ・スターマー總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二十三日ベルリン出發、急遽モスコワヲ經テ、本邦ニ送ツタノデアリマス。同公使ハ九月七日朝東京ニ着キマシタノデアリマスガ、本大臣ハ別ニ急イデ會ヒタイ態度ハ示サナカッタノデアリマス。トコロガ九日先方ヨリ會見ヲ申出デマシタノデ、人目ヲ避クル爲同日私ノ私邸デ、同公使及オット大使ト會見致シマシタ。ソレカラ十日二度目ノ會見ヲ遂ゲ九月十一日二度目ノ會見ニ於テ一案ヲ得、更ニ兩國間ニ意見ヲ交換シタル結果條約案ノ要綱ヲ作成致シマシテ九月十九日御前會議ヲ開イテ決定ヲ仰ギ爾後更ニ右要綱ニ基イテ交渉ヲ進メ今般條約案ノ妥結ニ達シタ次第御座イマス。

乙、條約案ノ説明

前文ニ付テハ別ニ御説明スル必要ハナカラウカト存ジマスルガ我建國ノ御詔書ノ中ニアリマスル八絃一字、即チ總テノ國民、民族ガ各其ノ所ヲ得ルト云フ大精神ニ基キ餘程辭句ヲ練ツタモノデ御座イマス。

第一條ニ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスガ、當方デハ當初アフリカニ於ケル新秩序建設ヲ先方ガ持出スカト思ツタノデゴザリマスガ、先方ガ之ヲ持出サナカッタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル地位承認ニ限ツタ次第デアリ

第二條ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、タイ國、ヒルマ、海峽植民地、蘭印ヨリニエギニヤ、ニエカレドニヤ等ヲ合ムオセアニアノ島嶼ヲ合ム意味デアリマシテ、此ノコトハ此際ノ事デモゴザリマスシ、ソレニ東亞ノ形勢如何ト世界情勢ノ推移ニヨリ漸次其範圍ニ變更ノアリマスコトト豫想サレルコトデモゴザリマスノデ、先方ハハ態ト大綱ニ話シ、濠洲トニエジラント及其以南ハ今ノ處遣入ラスガ、時ト共ニ自然範圍ハ擴ガルナラン、ト申聞ケ、印度ニハ言及ヲ避ケマシタ。先方モ別ニ細カクハ尋ネズシテ本大臣ノ所述ニ同意ノ意ヲ表シマシタ。

是ニ對シ獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ認ムルガ、經濟的ノ通商、企業、原料取得ト云フガ如キコトニ就テハ日本ニ於テモ出來得ル限り便宜ヲ與ヘテ貫ヒタイト申シテ居ルノデアリマス。日本側モ亦同地域ノ經濟的開發ニハ大ニ獨伊ノ協力ヲ得ンコトヲ期待スルモノデアルト應酬シテ置キマシタ。

第三條ノ中「現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラザル一國ニ依リ攻撃セラレタルトキハ云々」ノ一國ト申スノハ暗ニ米國ヲ主トシテ指シタノデアリマシテ、其ノ一國ニ依リ攻撃セラレタル場合ニハ自働的ニ參戰義務ガ發スル次第デアリマシテ、即チ我國ハ獨伊ト米國ヲ對照トスル軍事同盟ニ

B-0061

這入ルノデアリマス。又交換文書ノ中ニ攻撃ヲ受ケタカドウカハ三國間デ協議シタ上デ決メルコトニナツテ居リ、參戰義務ガ發生シタカドウカハ自主的ニ決定スル様ニナツテ居リマス。

第四條ハ本條約實施ノ爲日獨伊三國委員ヨリ成ル混合專門委員會ヲ遲滞ナク開催スベキ旨ヲ規定シテ居リマス。之等ノ委員會ハ本條約實施ノ軍事的、經濟的方法ヲ講究スル次第デアリマス。

第五條ハ本條約ガ蘇聯ニ向ケラレタルモノニ非ザルコトヲ規定シタモノデアリマス、ガ、實ハソ聯ハ獨伊對英佛戰ニハ參加シテ居ナイ建前トナツテ居ルノデ、或ハ第三條ノ所謂「一國」ニ相當スルモノデハアルマイカトノ疑惑ヲ生ズル虞モアリマスシ、旁々日獨伊ガ世界新秩序ヲ造ル上ニ於テ蘇聯ヲ敗ニ廻ス懸念ノナイコトヲ明カニシ、特ニ獨逸ト蘇聯トノ間ニポーランド始メ、歐洲ニ於ケル現在ノ取極又ハ見解若クハ或種ノ事態ヲ存セル、ソノ事實ニ些カモ影響スル所ノナイコトヲ明カニシテ、蘇聯ヲ安心サセ、之ニ依リ米蘇ノ接近ヲ防グノ目的ニ資シヤウトスル趣旨デアリマス。

丙、結 言

今回ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼内閣時代ノ夫レト全ク異ツテ居リマス。即チ獨逸側モ日本ノ歐洲戰爭參加ノ必要ナント言明シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日米衝突ヲ、回避スル事ヲ共通目的トシタデアリマス。從テ皇國政府ガ從來探ツテ來マシタ不介入方針ハ、將來本條約ニヨリ影響セラレルコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ繼續セラレル次第デアリマス。

米國ハカナダトノ共同防衛ヲ決定スルヤ、間モナク、日米間ノ些細ナ問題ニ迄、殆ンド堪ヘ難イト思ヘルガ如キ態度ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米大統領及國務長官ノ反省ヲ促シタヤウナ次第デアリマス。

最近ノ動キニ就キ洞察シマスルニ、米國ハ太平洋及ビ南洋方面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シツツアル軍事施設ニ加フルニ此ノ際飛躍的ニ且取急イデ濠洲、新西蘭、印度、ビルマ其ノ他ノ南方ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ整ヘントシテ居ルノデハアルマイカト、カナダトノ前述共同防衛ニ關スル協定成立ガ報ゼラレマシタル時、本大臣ハ已ニ想像シタノデゴザリマスガ、其後間モナク果然英帝國及ビ濠洲政府ト米國トノ間ニ、協議進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト想ハルル、新聞報道サヘ傳ヘラルルニ至ツタデアリマス。又段々ト支那事變ニテ日本ガ消耗戰ニ惱シデ、國力ガ著シク減殺セラレタト見テ恫喝の言辭ヲ弄スルノデハアルマイカト想像セラレル廉モゴザリマスガ、ソノ理由ノ那邊ニ在ルニセヨ、日米國交ハ最早禮讓又ハ親善希求等ノ態度ヲ以テ改善スルノ餘地ハ殆ンドナイト思ハレマスノミナラズ、却ツテ惡化ナス次ノ事デハアルマイカト懸念セラレル有様ニナツテ參リマシタ。若シ幾分ニテモ之ヲ改善シ又ハ此ノ上ノ惡化ヲ妨グ手段アリトスレバ唯數然タル態度ヲ探ルト云フ事シカ、此ノ際ノ措置トシテハ、殘ツテ居ナイト存ジマス。苟モ然リトスレバ、ソノ毅然タル態度ヲ強ムル爲ニ二國ニテモ多

B-0061

第五 日獨伊三國條約ニ關スル樞密院  
本會議議事概要

S. 2.1.0.0. - 33

476

クノ國ト堅ク提携シ、且ツノ事實ヲ一日ニテモ、速ニ中外ニ宣明周知セシムルコトニ依リテ、米國  
ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアアルト信ズルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響乃至  
效果ヲ注視シツツ尙米トノ國交ヲ轉換スルノ機會ハ、之ヲ見逃サナイ用意ヲ常ニ怠ラナイ覺悟デゴ  
ザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ堅イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ツテ一點疑  
ヒラ容ルル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセン。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最重要  
ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

二四四

S. 2.1.0.0. - 33

475

B-0061

第五、日獨伊三國條約ニ關スル樞密院本會議議事概要

九月二十六日午後九時四十五分開會

宮中東溜ノ間ニ於テ

出席者

金子顧問官及田中顧問官ヲ除ク全顧問官出席

全閣僚出席

説明員ハ審査委員會ト同様

天皇陛下九時四十五分出御

原議長開會ヲ宣ス

鈴木副議長審査委員長トシテ委員會ノ經過ヲ報告シ本條約締結ニ伴フ政府ノ施策萬全ヲ期スルコト對

英米關係ニ於テ無用ノ刺戟ヲ避クルコト等ノ希望ヲ附加シタル審査報告ヲ朗讀ス

石井顧問官

本案ニ賛成ナルモ近代ノ同盟ハ古代ノ同盟トハ異リ利害關係ノ結合ニ過ギザルモノナリ歴史ヲ教フル

所ニ依レバ同盟國間ノ關係ハ頗ル難シキモノナリ殊ニ獨逸ハ最モ惡キ同盟國ニシテ獨逸ト同盟ヲ結ビ

二四五

S 2.1.0.0. - 33

477

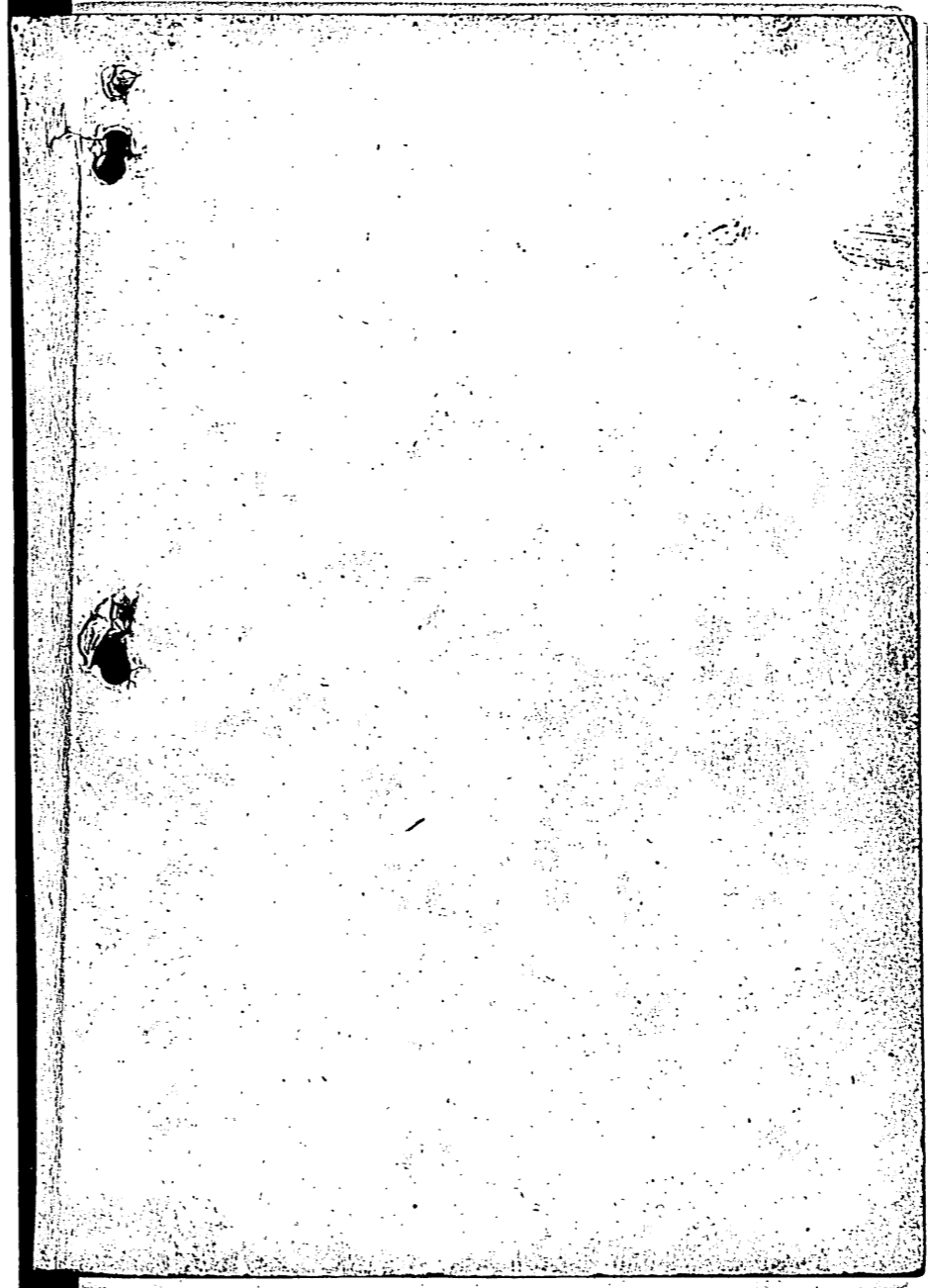
B-0061

タル國ハ凡テ不慮ノ災難ヲ被リ居レリ「ビスマルク」ハ嘗テ同盟ニハ常ニ騎馬武者ト稱馬トアリト云  
 ヘリ事實獨逸ガ同盟國タル土、埃ヲ迅スルコト恰モ騎馬武者ガ駑馬ヲ操ルガ如ク彼等ノ獨立性ハ完全  
 ニ失ハレタリ或ハ「ナチス」ハ帝制獨逸トハ異ルト云フ論ヲ爲スモノモアルナランモ「ヒトラー」モ  
 國際條約ヲ以テ一片ノ紙片ト見居ルコトハ昨年八月日獨逸ニ防共協定アルニ拘ラズ獨逸不可侵條約ヲ  
 結ビタルコトニ依リテモ解ル通ナリ次ニ伊太利ハ「マキアベリ」ヲ生ミタル國ニシテ獨  
 逸ト同盟ヲ結ンデ之ヲ無視シタル獨逸以上ノ強者ナリ今度此ノ獨伊兩國ト同盟ヲ結ブ次第ナルヲ以テ  
 條約ノ運用ニ付テハ充分心セザルベカラズト思考ス然レ共今日ノ日獨伊ノ如ク利害關係ノ全ク一致セ  
 ル國ハ古今東西ヲ通ジテ稀ニシテ此ノ三國ガ結合スルコトハ蓋シ自然ノ勢ト云フベク此ノ見地ヨリ本  
 條約ノ締結ハ國策トシテ當ラ得タルモノト思考ス唯之ガ運用ニハ充分注意スル必要アルベシ  
 議長贊否ヲ起立ニ問ヒ全顧問官起立滿場一致可決時ニ午後十時十分ナリ

B-0061



B-0061



原稿

B-0061



2-③

第一、日伊三國條約之附屬文書、各社理事作以後通概要

中表紙(書)

外務省

B-0061

第一、日獨伊三國條約並ニ附屬文書ノ各種案文作成

經過概要

(松本條約局長覺)

昭和十五年九月五日大橋次官、白鳥、齋藤兩顧問ニ於テ別紙第一  
號ノ如キ案ヲ作成松岡大臣ヨリ四相會議ニ提出審議セラレタリ  
ニ之ヨリ先獨外相「リッペントロップ」ガ特派セル「スターマー」  
公使ハ八月二十三日伯林發「モスコ」經由九月七日東京着、同  
九日「オット」大使ト同道松岡大臣ノ私邸ヲ訪問會見ヲ遂ゲ翌十  
日更ニ會見セルガ其ノ際ノ記録別添第二號ノ通ナリ  
右結果ヲ獨逸側ヨリ「リ」外相ニ報告ノ結果「リ」外相ヨリ對案  
(別添第三號)ヲ電報シ來リ九月十四日午後八時半「オット」大

外務省

(日本標準規格B5)

4

使「スターマー」公使之ヲ松岡大臣ニ手交セリ、右案ハ第三項ニ  
「公然ト又ハ隱密ノ形狀ニ於テ」ナル字句ヲ入レ(此ノ字句ハ我  
方ヨリ之ガ削除方申出タリ)又第五項(「ソヴィエト」ニ關スル  
條項)ヲ挿入セル點ニ於テ前案ト異ル(本案ハ九月十六日午前午  
後ノ臨時閣議及九月十九日ノ御前會議ノ議題ノ基礎ヲナセル案ナ  
リ)  
右「リ」外相案ニ基キ我方ニ於テ條約(Pact)案ヲ作成シ且「オッ  
ト」及「スターマー」ト會談ノ結果ヲ秘密議定書並ニ個ノ交渉公  
文(一ハ日英紛争ノ際ノ獨伊兩國ノ協力ノ問題ニ關シ他ハ南洋委  
任統治下ノ島嶼ニ關ス)ニ纏メ九月十九日齋藤顧問獨逸大使ニ手

外務省

(日本標準規格B5)

B-0061

6

三

「會見ニ於テ別添第八號ノ如ク修正セララル（一）宣戰ノ字句ハ海軍側ノ強硬ナル反對モアリ削除ス（二）混合委員會ハ經濟委員會ヲモ設置シ得ル如ク廣クス」尙其ノ際獨逸側ハ議定書以下ノ文書ハ現在ノ形ニテハ片務的ニシテ之ヲ完全ナラシメ且伊太利側ノ同意ヲ取付クルハ困難ニシテ且時日ヲ要スルヲ以テ之ガ取止メ方申出デタリ、依テ我方ハ祕密議定書ノ内容ハ之ヲ日獨間限リノ交換公文ノ形トシ、日英紛争ニ關スル交換公文モ日獨間限リノモノトシ又委任統治ニ關スル公文ハ獨逸大使ノ口頭聲明ヲ確認スルノ形トスルコトヲ提議シ其ノ結果翌二十二日別添第九號ノ案ヲ作成獨逸大使館ニ送付セリ

(日本標準規格 B5)

外務省

5

交セリ（別添第四號）  
 右各文書案ハ獨逸側ノ希望モ取入レ二十日別添第五號ノ如ク修正セラレタリ（議定書案ノ第六項ハ獨逸側ノ要求ニ依リ新ニ挿入セリ）又日英紛争ニ關スル交換公文ノ末尾ヲ變更修文セリ  
 九月二十一日獨逸側ハ本國政府ノ訓令（「リッペントロップ」外相ハ十八日伯林、十九日及二十日「ムッソリーニ」首相及「チアノ」外相ト會見本件ヲ審議セルヲ以テ本訓令ハ羅馬ヨリ來レルモノナルベシ）ニ依リ別添第六號ノ條約案ヲ提出シ第三項ノ修正理由トシテ別添第七號ノ如キ訓令摘録ヲ添附セリ  
 右案ハ同日夕刻ノ松岡大臣（松本陪席）、「オット」「スターマ

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0061

7  
出

七同夕五時ヨリノ會談（松岡大臣、松本局長、「オット」、「スターマー」）ニ於テ條約ハ別添第十號ノ通決定、又日英紛争ノ交換公文ハ獨逸側ノ要求ニ依リ *note letter* トシ番號ヲ附スルコトトシ別添第十一號ノ通決定、委任統治ニ關スル分ハ別添第十二號ノ通決定（松岡大臣中座シ齋藤顧問ト代ル）而シテ秘密議定書ノ内容ヲ交換公文トセル案ニ付テハ獨逸側ハ同意セズ別添第十三號ノ如キ「オット」大使ノ書翰案ヲ「オット」自ラ松本局長ニ口授研究方依頼セリ

尚同日「スターマー」ハ白鳥顧問ニ對シ獨逸側ハ本件條約ヲ伯林ニテ調印方申出タルヲ以テ右會談ニ於テ松岡大臣ハ調印地ノ問題

(日本標準規格B5)

外務省

8  
出

ニ言及シ假ニ調印地ヲ伯林トスル場合ニハ書翰交換ハ本大臣ト「オット」大使ノ間ニ於テナスコトトスルモ一案ナリト云ヘリ

ハ九月二十三日午後松本條約局長大臣ノ命ニ依リ別添第十四號ヲ獨逸大使館ニ於テ「オット」及「スターマー」ニ手交伯林ニ電報方依頼セリ、翌二十四日獨逸大使館「ボルツェ」參事官松本條約局長來訪右別添第十四號中(一)ノ點ニ付テハ獨逸政府ハ伯林ニテ調印方切望スル旨(二)ニ付テハ獨逸政府ニ於テ目下講究中ナル旨又(三)ニ付テハ交換公文ノ内容ハ片務的ナルヲ以テ之ヲ完璧ナラシムル爲ニハ時日ヲ要スルヲ以テ受諾シ難キ旨回電アリタル趣回答アリタリ

ハ九月二十四日午後五時松岡大臣（松本陪席）「オット」「スター

(日本標準規格B5)

外務省

B-0061

9

「マー」ト會見、先ヅ條約案ヲ別添第十五號ノ通確定、次デ日英紛  
 争ニ關スル書翰案ヲ第十六號ノ通確定、又委任統治ニ關スル文書  
 ハ adequately トアリタルヲ（獨逸側ハ本件代償ハ主義上ノ問題  
 ニテ實ハ「ノミナル」ノモノナリ例ヘバ「コーヒー」六袋ニテモ  
 可ナル次第ナリト説明セリ） In a way ト改メ別添第十七號ノ  
 通確定又祕密議定書案ニ胚胎スル文書ニ付テハ松岡大臣ヨリ別添  
 第十八號ノ如キ案ヲ提示シ之ニ對シ獨逸側ハ別添第十三號ノ案ヲ  
 修正シタル案ヲ提出シ、之ヲ付キ合セ別添第十九號ノ如キ案ヲ得  
 翌二十五日獨大使館ニ送付確定セリ

一〇九月二十五日午前十一時獨逸大使館「ボルツェ」參事官松本條

外務省

(日本標準規格B5)

10

約局長ヲ來訪獨逸外務省ヨリ大使宛左ノ通來電アリタル旨ヲ述ベ  
 タリ

(一)獨逸政府ハ條約「テキスト」(英文)ヲ承認ス

(二)伊太利政府モ右「テキスト」ヲ承認ス可キコトヲ確信ス、獨逸  
 外務省ハ伊太利外務省ヨリ在東京伊太利大使ガ松岡大臣ニ條約  
 ヲ受諾スル旨正式ニ申入ルル様依頼セリ

(三)(イ)獨逸政府ハ英語「テキスト」ニ假ニ署名スル事ニ同意ス  
 (ロ)右事實ハ絶對ニ極秘トス

(四)二週間位後陰密ノ裡ニ英文「テキスト」ヲ日本文、獨逸文、  
 伊太利文ニスリカヘ署名ス

外務省

(日本標準規格B5)

B-0061



11

外務省

(四) 來栖大使ニ對スル全權委任狀ハ在京獨逸大使館ニ寄託シ其事實ヲ大使ヨリ獨逸外務省ニ電報ス(右ノ點ニ關シテハ條約局長ヨリ今回ノ如キ批准條項ナキ條約ニハ正式ノ全權御委任狀ハ下附セラレザルヲ以テ來栖大使ニ於テ條約締結方御裁可アリタル趣ヲ外務大臣ヨリ在京獨逸大使ニ通報方取計フ可シト述ベタルニ「ボ」參事官ハ右ニテ可ナリト答ヘタリ)

(五) 成ル可ク木曜日ニ署名ノ運ビト致度(松本條約局長ヨリ右ハ實際上不可能ナリト述ベタリ)

尙大使ノ希望トシテ總理大臣ノ「ステートメント」ノ案ハ來栖大使ニ電送獨逸外務大臣ニ提示セラレ打合サルル様致度、松岡大臣

(日本標準規格B5)

12

外務省

ガ伊太利大使ニ會見ノ際ハ例ノ三ツノ書翰ニハ絶對ニ言及セラレザル様希望ス(尙三書翰ハ大臣ヨリ大使宛ノ分ハ日本文ニ英譯ヲ附シ大使ヨリ大臣宛ノ分ハ獨逸文ニ英譯ヲ附スル事ニ申合セタリ)

一、在京伊太利大使「インデルリ」ハ九月二十五日午前十一時三十分松岡大臣ヲ來訪伊太利政府ハ本件條約案ニ同意ナル旨正式ニ申入レ來レリ

一、同日午後松本條約局長ハ獨逸大使館ニ「スターマー」公使ヲ訪問翌二十六日條約案ヲ樞密院ニ附議スルニ決定セルヲ以テ二十七日ニハ調印可能ナル旨申入レ打合セノ結果二十七日正午(伯林時間)英文「テキスト」ニ調印ノコトニ一應決定伯林へ電報スルコトト

(日本標準規格B5)

B-0061

入

13

ナレリ

一 翌二十七日伯林時間正午（東京時間午後七時）調印ノコトニ確定シタルモ「チノ」伊外務大臣飛行機遲着ノ爲午後一時十五分調印ノ旨在獨大使館ヨリ電話アリタリ

一 右調印後同夜九時半松本條約局長獨逸大使館ニ於テ「オット」大使（「スターマー」陪席）トノ間ニ三文書ノ交換ヲ了セリ

別作第ニヤリ

外務省

（日本標準規格B5）

B-0061



本案ハ陸海軍省當局修正案

朱字ハ外務省修正案

行丸

16 別紙第一

方針案 昭和一五、九、四 昭和一五、八、六

大方針

帝國ト獨伊トハ世界新秩序建設ニ對シ共通の立場ニ在ルコトヲ確認シ相  
互ニ其ノ生存圈ノ確立及經倫ニ對スル支持及對蘇對米政策ニ關スル協力  
ニ就キ了解ヲ遂ク(別紙第一)

主要一頁

帝國ト獨伊間ニ於テ本方針ニ基ク基本的了解ヲ遂ク(別紙第一)

註 右基本的了解ニ基キ更ニ日獨伊間又ハ日獨、日伊間ニ所要ノ協定  
ヲ行フモノトス

現在日獨伊各國カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ニ關スル相互支

海軍

(花崎總)

17

石丸

持協力ニ關シ右基本的了解ト共ニ速カニ了解ヲ遂ク(別紙第二)

三 右實施ハ左ノ各項ニ依ル

一 前記(一)及(二)ノ交渉ハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件  
ヲ体シ且別紙第四交渉方針要領ニ基キ行フ

中 前記(一)ハ伯林及羅馬ニ於テ實施ス

小 前記(二)ハ(一)ト共ニ一併伯林及羅馬ニ於テ提案シ其ノ具體的交渉ヲ東

東ニ於テ行フ

四 以上ノ了解ハ必シモ協定ノ形式ヲ執ルヲ要セザルモ獨伊ノ希望アルニ  
於テハ協定トスルヲ妨ゲズ

海軍

(花崎總)

B-0061

日獨伊提携強化ノ爲ノ基本トナルベキ政治的了解事項

一、日本及獨伊兩國ハ現在其ノ實現ニ努力シツツアル世界ノ新秩序建設ニ關シ共通ノ立場ニ在ルコトヲ確認シ公正ナル世界平和ヲ助成増進スル爲相互協力ス

二、日本及獨伊兩國ハ夫々新秩序建設ノ爲南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル日本ノ生存圏並ニ歐洲<sup>及</sup>弗利加ニ於ケル獨伊ノ生存圏ヲ相互ニ尊重シ右地域ニ於ケル新秩序建設ニ對シ相互ニ支持ヲ與フ

三、日本及獨伊兩國ハ相互ニ密接ナル經濟的協力ヲ行フ之ガ爲<sup>各自</sup>ノ生存圏内ノ所<sup>在</sup>ノ優先的相互交易並ニ技術ノ交換ヲ行フト共ニ夫々<sup>各自</sup>ノ生存圏内ニ於ケル對手國ノ經濟的活動ニ付好意の考量

海軍

別紙第一

ヲ加フ

四、日本及獨伊兩國ハ「ソ」聯トノ平和ヲ維持シ且「ソ」聯ノ政策ヲ兩者共通ノ立場ニ關ハシムル如ク利導スルコトニ協力スルト共ニ其ノ一方<sup>獨伊ト交渉ノ優先方ニ着目</sup>ガ蘇聯ト戰爭状態ニ入ル危險アル場合ニハ執ルベキ措置ニ關シ協調スルコトトス

(花崎稿)

五、日本及獨伊兩國ハ米國ヲシテ<sup>西半球及米國ノ領地</sup>以外ノ方面ニ容喙セシメザルト共ニ之ニ對シ兩者ノ政治的經濟的利益ヲ擁護スル爲相互協力ス又其ノ一方<sup>他ノ一方ハ凡ソル方法ヲ以テ之</sup>方カ米國ト戰爭状態ニ入ル危險アル場合ニハ兩者小執ルベキ措置ニ關シ<sup>之</sup>援助ス

日本及獨伊兩國ハ中南米ニ對スル施策ニ關シ緊密ニ協力ス

海軍

別紙第一

備考 本了解ハ秘密トス

(花崎純)

海軍

別紙第二

日本及獨伊兩國ノ歐洲戰爭及支那事變ニ對スル  
相互支持協力ニ關スル了解

一 日本及獨伊兩國ハ現在兩者カ夫々直面シアル支那事變及歐洲戰爭ノ解  
決ニ方リ左ノ如ク相互ニ支持協カス

日本ハ

(イ) 獨伊ノ希望スル南洋ヲ含ム東亞所在物資ノ取得ニツキ獨伊ノ希望ニ對シ  
便宜ヲ供與ス

(ロ) 南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル英國ノ勢力ニ對スル壓迫ヲ強化スルト共ニ  
獨伊ノ對英戰爭遂行ヲ容易ニスル爲爲シ得ル限り協カス  
獨伊ハ

海軍

(別紙)  
考數

23  
◎

(大東)

別紙第三

日獨伊提携通化ニ對處スル基礎要件

一、帝國大東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圏ニ就テ

(1) 獨伊トノ交渉ニ於テ帝國大東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圏トシテ考慮スベキ範圍ハ

日滿支ヲ根幹トシ、舊獨領委任統治諸島、佛領印度及同太平洋島嶼、泰國、英領馬來、英領「ボルネオ」、蘭領東印度、「ビルマ」(濠洲、新西蘭)竝ニ印度等トス但シ交渉上我方ガ提示スル南洋地域ハ「ビルマ」以東蘭印、「ニューカレドニア」以北トシ濠洲新西蘭及一應「ソ」聯ノ生存圏内ニ置クヲ圖ムルコトアルヘシ  
印度ニ付テハ後記(イ)我方ノ意向ヲ反映セシムルコトトス

(2) 帝國ノ委任統治スル舊獨領諸島ハ我領土ニ併合スル措置ヲ講ズル

海軍

(花崎純)

22

(1) 日本ノ希望スル機械類等ノ供給竝ニ技術ノ援助ニ關シ爲シ得ル限り協力ス

(2) 支那事變解決ノ爲協カス

備考

本了解ハ秘密トス

海軍

(花崎純)

其ニ太平洋ニ於ケル英、荷、獨、領、委任統治諸島ノ對テ、  
リ勢ヲテ帝國ノ支配下ニ歸スル如ク處理ス  
(No) 蘭領東印度ハ獨立態勢ニアラシムルヲ目途トシ、  
濟上ノ優越的地位ヲ認メシムルモノトス  
勢力下ニ置キ

右ニ關シ萬一獨逸ノ提案ト相觸ルルコトアル場合ニ於テモ蘭印  
資源ノ優先的供給、蘭印ニ於ケル獨逸人ノ既得經濟經營繼續ニ關ス  
ル保障其他全般ニ於ケル政治的折衝ニ依リ蘭印ニ於ケル帝國ノ政治  
的地位  
的指導權ヲ認メシムルコトトス  
(四) 佛領印度支那ニ關シテモ、  
(五) 佛領印度支那ニ關シテモ、  
(六) 澳洲及新西蘭ハ其他ノ地域トシ、其間幾分ノ逕庭ヲ存スルニ帝國ノ關

海軍

(花崎納)

心ヲ有スル所ナルコトニ差異ナク、從テ本邦東亞以外ノ國ノ領  
土或ハ管理ニ變更セラルルヲ欲セズ  
(ハ) 印度ニ關シテモ、  
ニ日獨伊三國ノ經濟協力ニ就テ

(イ) 交易ニ關シ、  
佛印、蘭印等ノ特殊鑛產物及「ゴム」等ノ供給ニ付協力ヲ與フベク  
獨伊ハ、  
ノ供給ヲ爲ス  
相互經濟的活動ニ關シテハ、  
ノ爲優先的取扱ヲ爲シ其技術及施設ヲ參加セシム

海軍

(花崎納)



海軍

(回) 右目的ノ爲夫々經濟協定、貿易協定及支拂協定ヲ締結ス

三、日獨伊三國ノ對「ソ」及對米協力ニ關スル帝國ノ態度ニ就テ

世界ガ東亞、「ソ」聯、歐洲及米洲ノ四大分野ニ分ルルヲ豫見セラレ  
ル戰後ノ新態勢ニ於テ東亞ノ指導者ヲ以テ任スル帝國ハ歐洲ノ指導勢  
カタル獨伊ト密接ニ提携シ

(イ) 「ソ」聯ヲ東西兩方面ヨリ牽制シ、且之ヲ日獨伊共通ノ立場ニ副フ  
如ク利導シテ其勢力圏ノ進出方面ヲ日獨伊三國ノ利害關係ニ直接影  
響少キ方面例ヘバ波斯灣、<sup>(場合ニ依リテ)</sup>印度方面、<sup>(如ク)</sup>澳洲、<sup>(如ク)</sup>南米、<sup>(如ク)</sup>北米  
トアルヘシ

(ロ) 又米國ニ對シテハ努メテ平和的手段ヲ以テスベキモ東亞及歐洲分野

(花崎)

海軍

ノ政治的、經濟的提携ニ依リ所要ニ應ジ米國ニ對シ壓迫ヲ指向シ得  
ルノ態勢ヲ構成シ以テ帝國ノ主張ヲ貫徹スルニ寄與セシムル如ク策  
ス

右施策ニ際シ努メテ「ソ」聯ヲ利導スルコトヲ考慮ス

且又獨伊ハ現在南米ニ相當ノ移民ト經濟的地歩トヲ有スルヲ以テ將  
來帝國ノ米國ニ對スル諸般ノ施策ニ之ヲ利用ス

四、日獨伊三國ノ對英協力ニ關スル帝國ノ態度ニ就テ

(イ) 帝國ハ東亞新秩序建設、<sup>(上)</sup>南洋ヲ含ム東亞ニ於テ英國ノ政治的權  
益ヲ排除スル爲狀勢ニ應ジ諸施策ヲ講ズ

(ロ) 右施策ハ英國ノ地位ヲ薄弱化スルモノニシテ現ニ支那ニ於ケル帝

(花崎)



國ノ對英政策カ自ラ歐洲戰場ニ有效ニ影響シ居ルコト事實ノ示ス所ナリ

(花崎)

(ロ) 帝國ハ更ニ獨伊ノ對英戰爭ニ一層協力スル爲獨伊ノ希望スル南洋ヲ

含ム東亞所在資源ノ取得ニ對シテ協力ヲ惜マス、又東亞ニ於ケル英

國權益ノ排除ヲ示威及宣傳上依ル協力ヲ願及殖民地ノ獨立運動支援

等獨伊ノ對英戰爭ニ關シ一層ノ協力ヲ爲ス

三ノ對英武カ行使ニ關シテ左ノ諸項ニ依リ自主的ニ決定ス

(一) 支那事變處理概ネ終了セル場合ニ於テハ内外諸般ノ情勢之ヲ許ス  
限リ好機ヲ捕捉シ武力ヲ行使ス

(二) 支那事變ノ處理未ダ終ラザル場合ニ於テハ獨伊戰ニ至ラザル限度ニ

海軍

○カ若クハ我準備ノ成否ニ拘ラズ國際情勢ノ推移最早推テ許サスト認メラルル場合△

海軍

於テ施策スルモ内外諸般ノ情勢特ニ有利ニ進展スルニ至ラバ武力ヲ行使スルコトナリ

(花崎)

(三) 内外諸般ノ情勢トハ支那事變處理ノ狀況ノ外歐洲情勢特ニ對「ソ」

國交調整ノ狀況米國ノ我ニ對スル動向及我戰爭準備等ノ諸件ヲ指

スモノトス

海軍

交渉方針要領

一 本提携強化具現ノ爲ニハ獨伊カ全カヲ擧ゲテ英國打倒ニ邁進シタルノ機會ヲ逸スベカラズ獨伊ノ戰勝確定後右折衝ヲ開始スルコトトシテハ其ノ效果ハ極メテ減少セラルルニ至ルヘキイミヲ有ス南洋ニ關シテ相當ノ關心ヲ有スル獨逸ノ態度ニモ亦何等カノ變化ヲ來ス處ナシトセサレハナリ

本件交渉ニ付テハ獨伊各別ニ行フモノトス、但獨伊側ヨリ三國間ノ交渉ヲ希望シ來ル場合ニハ之ニ應スルモ可ナリ

一 歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力關係ノ一解ハ獨伊ニ對スル提携強化ノ提議ノ際基本的了解、同時ニ提案シ其ノ内容ニ付テハ討議

海軍

(花崎總)

30 獨逸 (特別)

(花崎總)

一 小東京ニ於テチチ行フコトトスルモ前記ニ了解ハ一體不可分トス

一 獨伊ヲシテ帝國ノ南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル生靈圈ヲ承認尊重セシムヘ

キ別紙第一(二)ノ交渉ニ於テハ南洋ヲ含ム東亞全般ニ付包括的ニ帝國ノ優越的地位

政治的指導權ヲ認メシムルコトヲ主眼トス但獨伊側ヨリ特定地區ニ何等留保的態度ニ出ツル場合ニハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件ノ(一)ノ(四)項以下ヲ体シ右地區ニ付具体的折衝ヲ行ヒ之ヲ容認セ

シム

一 獨伊側ヨリ對英軍事の協力ニ關シ希望シ來タル場合ニ於テハ帝國トシ

テハ原則トシテ之ニ應スルノ用意アルモ我現狀ニ鑑ミ武力行使即チ參戰ニ關シテハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件第四項(一)ノ

海軍

31

(一) (二) (三) 如ク考慮シオ<sup>ル</sup>點ヲ説明諒解セシムルト共ニ獨伊側ヲシテ  
 國ノ對英開<sup>\*</sup>戰ニ關スル内外諸般ノ情勢改善ニ關シ我ニ協力セシムル如  
 クスルモノトス

(花解註)

海軍

B-0061

第三号

昭和十五年九月十日外務大臣はスターキー公使及駐日獨逸大使と私邸に於て會談し前日に引續き種々質疑應答を重ねたる後、別紙甲號外務大臣私案、試案を個人たる外務大臣以外何人をも拘束するもの非ざる旨を附言し九月九日の第一回會見に於ける先方の陳述を抽出せるものとして讀み聞かすと共に其寫を手交し研究を求め置きたる處兩人は九月十一日（午前十時十五分より同四十五分迄）再び外務大臣を私邸に來訪し別紙乙號の對案を提出し其第三項の事か外務大臣私案と異なる旨を告げ内容に付説明する處ありたり、尙先方は右對案は同官等限りの私案にして獨逸政府を拘束するものに非ざる旨附言せり

別紙  
試案

33

外務大臣の私試案譯文

- 一 日本は歐洲に於ける新秩序建設に關し獨逸及伊太利の指導的地位を認め且之を尊重す
- 二 獨逸及伊太利は大東亞に於ける新秩序建設に關し日本の指導的地位を認め且之を尊重す
- 三 日本、獨逸及伊太利は前述の趣旨に基ける努力に相互に協力し且各自の目的達成に對する總へての障礙を除去克服せんか爲適切有効なる方法に相互に協議す可きことを約す
- 四 日本、獨逸及伊太利は相互相倚り現に變化し又變化しつつある世界情勢に適應すへき世界新秩序の建設に依りてのみ平和の公正にして恒久的なる基礎を造り得るものなることを信し其の實現に關する各自の努力を整合せんことを約す

別紙  
試案

34

35

特別  
對日

cap.  
2  
isp  
2  
3

Tentative Formula

I. Japan to recognize and respect the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

II. Germany and Italy to recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

III. Japan, Germany and Italy to agree mutually to cooperate in their efforts on aforesaid lines and to consult with one another as to the suitable and effective means to remove and overcome any and all obstacles and hindrances to the achievement of their respective aims.

IV. Japan, Germany and Italy to agree to pull together and co-ordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet the changed and changing world conditions, which alone can be a just and durable foundation for peace.

B-0061



獨逸對案譯文

一、日本は歐洲に於ける新秩序建設に關し獨逸及伊太利の指導的地位を認め且之を尊重す

二、獨逸及伊太利は大東亞に於ける新秩序建設に關し日本の指導的地位を認め且之を尊重す。

三、日本、獨逸及伊太利は前述の趣旨に基ける努力に付相互に協力し且協議すること並右三國の中一國か現在の歐洲戦争又は日支紛争に參入し居らざる一國によりて攻撃せられたる場合には有ゆる政治的、經濟的、及軍事的方法により相互に援助す可きことを約す

四、日本、獨逸及伊太利は相互相倚り現に變化し又變化しつつある世界情勢に適應すへき世界新秩序の建設に依りてのみ平和の公正にして恒久的なる基礎を造り得るものなることを信し其の實現に關する各自の努力を整合せんことを約す

(資料)

36

本号

2  
3-9

4

37

(Handwritten marks)

Tentative Formula.

- I. Japan to recognize and respect the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy to recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy to agree mutually to cooperate and to consult in their efforts on aforesaid lines and to assist one another with all political, economical and military means when one of the three powers concerned will be attacked by a power not included in the present European war or the Japanese-Chinese conflict.
- IV. Japan, Germany, and Italy to agree to pull together and coordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet the changed and changing world conditions which alone can be a just and durable foundation for peace.

2



資料

別紙記載事項は昭和十五年九月九日（午後五時より同七時迄）及十日（午後五時半より六時半迄）の兩日外務大臣と Heinrich G. Stamer 公使及 Eugène Ochs 駐日獨逸大使との間に行はれたる懇談要點（外務大臣の了解したる所）を覺書とせるものなり。  
尙外務大臣は右を九月十一日（午前十時十五分より同四十五分迄）のスターマー公使及オット大使との會見に於て讀み上げ先方に於て其の正確なるを確認したるを以て大臣より右覺書筆寫第一部をスターマー公使に手交し置けり。

38

松岡、スターマー、佐藤

B-0061

Copy.

49

Copy (Handwritten) 本三

Formula of the German Foreign Minister.

- I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order on Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three powers concerned will either openly or in a concealed form be attacked by a power at present not included in the European war or in the Japanese-Chinese conflict.
- IV. Japan, Germany and Italy agree to cooperate and to coordinate their endeavours with a view to establishing a new world order to meet the changed and changing world conditions, which is alone a just and enduring foundation of peace.
- V. Japan, Germany and Italy to agree that the aforesaid terms do not in any way affect the present political status between the three aforementioned powers and Soviet Russia.
- VI. Japan, Germany and Italy will, without delay conclude a treaty laying down the details of the application of the aforementioned terms.

昭和十五年九月十四日午後  
八時半 スターン公使  
及オット大使 伯林ヨリ来日  
持交せるリッペンウロフ  
外相ノワーグラーユヨ  
持交す

B-0061

獨逸外相案譯文

- 一、日本は獨逸及伊太利の歐洲に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す
- 二、獨逸及伊太利は日本の大東亞に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す
- 三、日本、獨逸及伊太利は前記の趣旨に基ける努力に付相互に協力し且つ協議すべきことを約す
- 四、日本、獨逸及伊太利は相互相倚り現に變化し又變化しつつある世界情勢に適應すべき世界新秩序建設に依りてのみ平和の公正にして且恒久的なる基礎を造るものなることを信し其の實現に關する可きことを約す

(特別)  
奇數

50

各自の勢力を整合せんことを約す

- 五、日本、獨逸及伊太利は前記條項か日獨伊三國と蘇聯邦との間の現在の政治的關係に如何なる影響をも及ぼさざるべきことを約す
- 六、日本、獨逸及伊太利は遲滞なく前記條項の適用に關する細目を規定する條約を締結すべし

51

52

(第 111 号)

第四号

Three Powers Pact

Between

Japan, Germany and Italy.

12. C. B. C.

9

九月十日  
独逸 日本 意

9

B-0061

54

- I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three contracting Powers concerned is attacked (either openly or covertly) by a power at present not involved in the European war or in the Japanese-Chinese conflict.
- IV. Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three contracting Powers and Soviet Russia.
- V. The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At

53

(5/12/41)

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

B-0061

56  
Strictly Confidential

Protocol ) CAP ( 5/17/41 )

With reference to the Pact signed on this day by the representatives of Japan, Germany and Italy the Contracting

Parties have arrived at the following understanding:

I. With a view to determine by consultation with one another the detailed arrangements on the co-operation and mutual assistance between Japan, Germany and Italy as stipulated in Paragraph III. of the Pact, Joint Military and Naval Commissions, preferably one at Tokio and another at Berlin or Rome, together with a Joint Economic Commission, shall forthwith be organized. The composition of the aforesaid Commissions shall be determined through consultation by the Governments of Japan, Germany and Italy.

The conclusions of the said Commissions shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

13 II.

55  
- 2 -

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their seals.

Done in triplicate at , the day of

12

B-0061

58

- 3 -

In the event of Japan being attacked by a Power or Powers not at present involved in either the European War or the Sino-Japanese conflict referred to in the last part of Paragraph III. of the present Pact, Germany and Italy also undertake to come to Japan's assistance in the Pacific Ocean with all their means and resources.

IV. While Germany and Italy undertake to use their good offices with a view to improving relations between Japan and the U.S.S.R., Japan, Germany and Italy shall make utmost efforts to induce the U.S.S.R. to act in accord with the main purposes of the present Pact.

V. The Contracting Parties undertake to exchange from time to time without delay all useful inventions and devices of war and to supply one another with war equipments, such as aeroplanes, tanks, guns, explosives etc., which each Party may reasonably spare, together with technical skill and men, should they be required. Furthermore they are prepared to do utmost in furnishing one another with and in aiding one another in the

efforts

15

57

- 2 -

II. Whether or not a Contracting Party or Parties has or have been attacked openly or covertly as stipulated in Paragraph III. of the Pact shall be determined by the respective Governments, and in case the fact of such an attack has been established the measures of mutual assistance of political, economic and military nature to be adopted by the Contracting Parties shall be studied and recommended by the aforesaid Commissions, subject to approval of the respective Governments.

III. As the co-operation and mutual assistance stipulated in Paragraph III. of the Pact have in view as fundamental aims the efforts to establish forthwith a new order in Greater East Asia and Europe, to eventuate in a new world order, blessing Humanity with a just and equitable peace, Germany and Italy shall, in time of peace as well as war, take all possible measures to restrain a Third Power or Powers on the Atlantic with a view to better enabling Japan, Germany and Italy to accomplish their common aim of establishing a new order in Greater East Asia and in the Pacific Basin in general.

14

In

B-0061



60

Strictly Confidential

(手紙)

Excellency:

I have the honour to state that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German and Italian Governments to such a possibility and to ask the German and Italian Governments whether in such eventuality the Japanese Government may expect assistance and co-operation in every possible form as provided for under Paragraph III.

of

17

59

- 4 -

efforts to procure minerals including oil and other materials as well as machinery for war industries and various requisites for livelihood with machinery of all sorts employed in the production of such requisites.

VI. The present Protocol shall remain secret and shall not be published.

Done in triplicate at , the day of

16

B-0061



62

Strictly Confidential

(吉野 貞一)

Excellency:

I have the honour to state to Your Excellency that inasmuch as the German and Italian Governments recognize and respect the leadership of Japan in regard to the establishment of a new order in Greater East Asia, it is considered highly desirable by this Government that all the former German Colonies in the Pacific area should be ceded to Japan, without compensation in the case of the Group of Islands mandated by Japan and with proper compensation in the case of other mandated islands as well as those actually in British possession.

It is understood as a matter of course that Japan shall accord a specially favourable treatment to the activities of Germany and her nationals in these regions as compared to any other nation or their nationals.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

19

61

- 2 -

of the present Pact mutatis mutandis.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

18

B-0061

64

( 奇 別 / 數 )

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

21

63

行 止 九 〇

井

( 奇 別 / 數 )

第五号

Three Powers Pact  
Between  
Japan, Germany and Italy.

(2.C.B.C.)

九月廿一日

20

66

- 2 -

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their seals.

Done in triplicate at , the day of

23

65

I. Japan recognises and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

II. Germany and Italy recognise and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

III. Japan, Germany and Italy agree to cooperate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three contracting Powers concerned is attacked (either openly or covertly) by a power at present not involved in the European war or in the Japanese-Chinese conflict.

IV. Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three contracting Powers and Soviet Russia.

V. The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

22

At

B-0061

Strictly Confidential

三内閣  
既 閣下 draft

Draft. Protocol

With reference to the Pact signed on this day by the representatives of Japan, Germany and Italy the Contracting Parties have arrived at the following understanding:

I. With a view to determine by consultation with one another the detailed arrangements on the cooperation and mutual assistance between Japan, Germany and Italy as stipulated in Paragraph III. of the Pact, Joint Military and Naval Commissions, preferably one at Tokio and another at Berlin or Rome, together with a Joint Economic Commission, shall forthwith be organized. The composition of the aforesaid Commissions shall be determined through consultation by the Governments of Japan, Germany and Italy.

The conclusions of the said Commissions shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

II. Whether or not a Contracting Party or Parties has or have been attacked openly or covertly as stipulated in Paragraph III.

of

B-0061

of the Pact shall be determined upon consultation among the three Contracting Parties, and in case the fact of such an attack has been established the measures of mutual assistance of political, economic and military nature to be adopted by the Contracting Parties shall be studied and recommended by the aforesaid Commissions, subject to approval of the respective Governments.

III. As the cooperation and mutual assistance stipulated in Paragraph III. of the Pact<sup>t</sup> have in view as fundamental aims the efforts to establish forthwith a new order in Greater East Asia and Europe, to eventuate in a new world order, blessing Humanity with a just and equitable peace, Germany and Italy shall, in time of peace as well as war, take all possible measures to restrain a Third Power or Powers on the Atlantic with a view to better enabling Japan, Germany and Italy to accomplish their common aim of establishing a new order in Greater East Asia and in the Pacific Basin in general.

In the event of Japan being attacked by a Power or Powers not at present involved in either the European War or the Sino-Japanese conflict referred to in the last part of Paragraph III. of the present

Pact.

B-0061

Pact, Germany and Italy also undertake to come to Japan's assistance in the Pacific Ocean with all their means and resources.

IV. While Germany and Italy undertake to use their good offices with a view to improving relations between Japan and the U.S.S.R., Japan, Germany and Italy shall make utmost efforts to induce the U.S.S.R. to act in accord with the main purposes of the present Pact.

V. The Contracting Parties undertake to exchange from time to time without delay all useful inventions and devices of war and to supply one another with war equipments, such as aeroplanes, tanks, guns, explosives etc., which each Party may reasonably spare, together with technical skill and men, should they be required. Furthermore they are prepared to do utmost in furnishing one another with and in aiding one another in the efforts to procure minerals including oil and other materials as well as machinery for war industries and various requisites for livelihood with machinery of all sorts employed in the production of such requisites.

VI. In conformity with the spirit which prompted the conclusion of the present Pact, the Governments of the Contracting Parties

undertake

B-0061

undertake to enter into negotiations, without delay, with a view to deciding upon measures of assuring to the other Contracting Parties or their Nationals, in their commercial and industrial activities in the regions where the Contracting Parties are respectively recognized to have leadership by virtue of Paragraph I and II of the present Pact, a position which is preponderant in comparison to that of any Third Power and its nationals.

VII. The present Protocol shall remain secret and shall not be published.

Done in triplicate at , the day of

B-0061

72

- 2 -

~~of the present Pact mutatis mutandis.~~

I avail myself of this opportunity to renew to Your  
Excellency, the highest consideration.

29

71

*IV*

*Ag...*

Strictly Confidential

Excellency:

I have the honour to state that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German and

Italian Governments to such a possibility and to ~~ask the~~ *they feel confident*  
~~German and Italian Governments whether in such eventuality~~ *that Germany and Italy will do their utmost to aid*  
~~the Japanese Government may expect assistance and co-operation~~ *Japan in such eventuality with all means in*  
~~in every possible form as provided for under Paragraph III.~~ *their power.*

of

20

B-0061



1174

(奇新)  
(数1)

Three Powers Pact

between Japan, Germany and Italy.

12.C.B.C

独逸側才ニ治意。一独リ而免報致セルモノ(奇文)  
(九月二十日 奇新新聞)  
オットチはヨリ交也

507

第六号

31

42 11

(奇新)  
(数1)

Strictly Confidential

Excellency:

I have the honour to state to Your Excellency that inasmuch as the German and Italian Governments recognize and respect the leadership of Japan in regard to the establishment of a new order in Greater East Asia, it is considered highly desirable by this Government that all the former German Colonies in the Pacific area should be ceded to Japan, without compensation in the case of the Group of Islands mandated by Japan and with proper compensation in the case of other mandated islands as well as those actually in British possession.

It is understood as a matter of course that Japan shall accord a specially favourable treatment to the activities of Germany and her nationals in these regions as compared to any other nation or their nationals.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

30

B-0061

76

aggression against one of the three contracting parties, Japan, Germany and Italy undertake to declare war on such power and to assist one another with all political, economic and military means.

- IV. With a view to implementing the present pact, conversations between the generalstuffs of the Japanese, German and Italian forces will be opened by technical commissions which will meet without delay.
- V. Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three contracting Powers and Soviet Russia.
- VI. The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at Tokyo, the            day of  
September, 1940.

33

75

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

- I. Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.
- II. Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.
- III. Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. If a power not at present included in the European War or the Chinese-Japanese Conflict commits an act of aggression

32

B-0061

78-81

X

In our opinion an explicit emphasis of the obligation to declare war would have a specially strong neutralizing effect on America. America would certainly hesitate ten times before entering the war if the pact stated in clear and impressive terms that America would then automatically be at war with three great powers.

重  
複

3A

77

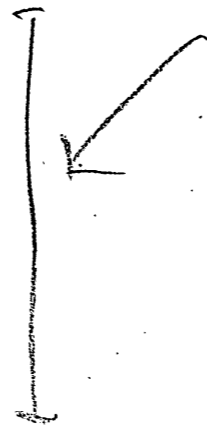
(奇數別)

第七

In our opinion an explicit emphasis of the obligation to declare war would have a specially strong neutralizing effect on America. America would certainly hesitate ten times before entering the war if the pact stated in clear and impressive terms that America would then automatically be at war with three great powers.

九月二十一日才了了了了了了  
本條冷平三理 爲路他通  
修正字、理由了了明也  
伯林列令、印、摘錄

SRJ



34

B-0061



81 80



Handwritten notes on the left margin: 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100.

aggression against one of the three Contracting Parties, Japan, Germany and Italy undertake to ~~declare war on such power and to~~ assist one another with all political, economic and military means.

IV. With a view to implementing the present <sup>P</sup>act, <sup>Joint Technical</sup> ~~Conversations between the general staffs of the respective Governments of Japan, Germany and Italy~~ <sup>Commission the members of which are to be appointed by the</sup> Japanese, German and Italian forces will be opened

by ~~technical commissions which~~ will meet without delay.

V. Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three contracting Powers and Soviet Russia.

VI. The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at Tokyo, the      day of September, 1940.

37

80 79

Handwritten Japanese characters in a circle: 特別 (Tokubetsu)



The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote the mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

I. Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

II. Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

III. Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. If a power not at present included in the European War or the Chinese-Japanese Conflict commits an act of aggression

36

83

aforesaid Commissions, subject to approval of the respective Governments.

III. As the co-operation and mutual assistance stipulated in Paragraph III. of the Pact have in view as fundamental aims the efforts to establish forthwith a new order in Greater East Asia and Europe, to eventuate in a new world order, blessing Humanity with a just and equitable peace, Germany shall, in time of peace as well as war, take all possible measures, in conjunction with Italy, to restrain a Third Power or Powers on the Atlantic with a view to better enabling Japan, Germany and Italy to accomplish their common aim of establishing a new order in Greater East Asia and in the Pacific Basin in general.

In the event of Japan being attacked by a Power or Powers not at present involved in either the European War or the Sino-Japanese conflict/referred to in the last part of Paragraph III. of the present Pact, Germany also undertakes to come to Japan's assistance in the Pacific Ocean with all their means and resources.

IV. While Germany undertakes to use their good offices with a view to improving relations between Japan and the U.S.S.R., Japan and Germany shall make utmost efforts to induce the U.S.S.R. to act in accord with the main purposes of the present Pact.

V. Japan and Germany undertake to exchange from time to time without delay all useful inventions

devices

4e

82

Strictly Confidential

(特別  
数)

九月二十二日訂定案  
全日午迄高野勝殿向  
才ワト古博、午ニ又

I  
第  
九  
号

Excellency:

I have the honour to state that the following are some of the salient points of our several conversations that had taken place from the 9th to the 21st September, 1940, relative to the conclusion of the Three Powers Pact signed on this day.

I. Joint Technical Commissions, stipulated in Paragraph IV. of the Pact, shall be organized at once together with a Joint Economic Commission. The composition of the aforesaid Commissions shall be determined through Consultation by the Governments of Japan, Germany and Italy.

The conclusions of the said Commissions shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

II. Whether or not a power not at present involved in the European War or the Sino-Japanese Conflict has committed an act of aggression against one of the three Contracting Parties, as stipulated in Paragraph III. of the Pact, shall be determined upon consultation among the Japanese, German and Italian Governments, and in case the fact of such an aggression has been established the measures of mutual assistance of political, economic and military nature to be adopted by the Contracting Parties shall be studied and recommended by the

aforesaid

19

85

Strictly Confidential

12/11  
13/11  
( 敬 申 )

II

Excellency:

I have the honour to inform Your Excellency that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German Government to such a possibility and to state that they feel confident that Germany will do their utmost to aid Japan in such eventuality with all means in their power.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

42

84

- 3 -

devices of war and to supply mutually with war equipments, such as aeroplanes, tanks, guns, explosives etc., which they may reasonably spare, together with technical skill and men, should it be required. Furthermore they are prepared mutually to do utmost in furnishing with and in aiding in the efforts to procure minerals including oil and other materials as well as machinery for war industries and various requisites for livelihood with machinery of all sorts employed in the production of such requisites.

← It is needless to say that the above understandings shall remain secret and shall not be published.

← It is desired that Your Excellency would confirm the understandings as above set forth.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

41

B-0061

87

Strictly Confidential

(寄附)

I  
九月二二日訂立  
ニ對シテ特別返輸案  
全南島南洋前線  
オワトチ條ニ付

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's note of the date with the contents as follows:

"

I take this occasion formally to confirm the understandings above set forth,

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

44

86

Strictly Confidential

(寄附)

Excellency:

I have the honour to ask Your Excellency to confirm the accuracy of the following oral declaration which was made by Your Excellency on behalf of the German Government:

"The German Government agree that the former German Colonies actually under Japan's Mandate in the South Seas will forever remain in Japan's possession against an adequate compensation. In regard to other former Colonies in the South Seas, the German Government undertake to confer with the Japanese Government upon and after the conclusion of the Three Powers Pact, in an accommodating spirit, with the view to disposing them as far as possible in Japan's favour."

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

43



89

5.13  
7.12  
(11)

III

Strictly Confidential

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's note of this date and to confirm the oral declaration contained therein which reads as follows:

"

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

46

88

5.13  
7.12  
(11)

II

Strictly Confidential

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's note of this date with the contents as follows:

"

I take this occasion to take note of the contents of Your Excellency's note.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

45

B-0061

91

(特別)  
(敷)

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

ARTICLE 1.

Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

ARTICLE 2.

Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

48

ARTICLE 3.

90

左の取

中

47

九月二十三日  
九月二十三日  
九月二十三日

Three Powers Pact  
Between  
Japan, Germany and Italy.

12.C.B.C.

I

47

B-0061

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at Tokyo, the            day of  
~~September, 1940.~~

ARTICLE 3.

Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three Contracting Parties is attacked by a power at present not involved in the European War or in the Sino-Japanese Conflict.

ARTICLE 4.

With a view to implementing the present Pact, Joint Technical Commissions, the members of which are to be appointed by the respective Governments of Japan, Germany and Italy will meet without delay.

ARTICLE 5.

Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three Contracting Parties and Soviet Russia.

ARTICLE 6.

The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

49  
At

50  
B-0061

95

Strictly Confidential

(手紙 12月 11日)

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's letter of this date with the contents as follows:

I take this occasion to take note of the contents of Your Excellency's letter.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

52

94

Strictly Confidential

(手紙 12月 11日)

Handwritten notes and stamps in the top right corner, including a date stamp '12月 11日' and other illegible markings.

Excellency:

I have the honour to inform Your Excellency that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured in the present circumstances that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German Government to such a possibility and to state that they feel confident that Germany will do their utmost to aid Japan in such eventuality with all means in their power.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

51

B-0061

97

Strictly Confidential

(特別  
機下)

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's letter of this date No. 1111 and to confirm the oral declaration made by me concerning the former German Colonies in the South Seas which is contained in Your Excellency's letter under reply.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

54

96

Strictly Confidential

(13  
特別  
機下)

13  
特別  
機下  
4

Excellency:

I have the honour to ask Your Excellency to confirm the following oral declaration which was made by Your Excellency on behalf of the German Government:

"The German Government agree that the former German Colonies actually under Japan's Mandate in the South Seas will remain in Japan's possession, it being understood that Germany be adequately compensated there for. In regard to other former Colonies in the South Seas, they shall be restored automatically to Germany upon conclusion of peace ending the present European War. Afterwards the German Government would be prepared to confer, in an accommodating spirit, with the Japanese Government with a view to disposing of them as far as possible in Japan's favour against compensation."

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

53

B-0061

99

of our interest with are in conformity for the present  
time and for long future and unlimited <sup>h</sup>mutral confidence  
of the Contracting Parties are forming the solid bases  
of the three Powers Pact. The German Government are  
convinced that the technical details of the Pact will  
resolved without difficulties on fundamental confidence  
and that it would be contrary to the far reaching  
importance of the Pact to fix formally some <sup>h</sup>single  
questions which could never thoroughly work out.

If Japan contrary to the aim of the Pact would <sup>be</sup> ~~be~~  
involved in a <sup>c</sup>Conflict with a power until now not  
belligerent, the German Government will be obliged  
without any doubt to assist Japan to the utmost extent  
and will offer every possible military and economic sup-  
port. Concerning the relations between Japan and Russia,  
Germany will help to obtain most friendly understanding  
and offer her good services for that purposes.

In the same way Germany will use her industrial

<sup>56</sup> capacity

98

九三年二月夜  
独逸方面提案  
オコシ  
レ  
方  
便  
松  
本  
備  
の  
事  
に  
接  
手

Letter from German Ambassador to Foreign Minister.

Cap

Excellency:

In the moment when our conversations Concerning the  
Three Powers Pact are to be Concluded successfully it is  
Minister Stamer's and my sincerest desire to express to  
Your Excellency our heartiest regard for your leading  
and generous cooperation in most accommodating spirit  
we should like to state once more in this letter the  
conformity concerning the salient points which we always  
have found in our conversations with Your Excellency in  
regard of the aims and details of the Pact.

The German Government are convinced that the  
Contracting Parties are going to enter in new and  
desire period of World History in which they will be  
charged with leadership of the establishment and new order  
in Greater East Asia, and in Europe. The recognition

of

55

101

(五期)

4  
第1書

九月二十三日午後  
独逸外務省に持参  
杉本外務省に  
大塚外務省に  
5  
5  
5

1. Does Rebbentrop insist <sup>on</sup> signing the Pact at Berlin? Matsuoka has been negotiating the Pact all through with an assumption that the Pact would be signed at Tokio which has been <sup>shuck</sup> by all these who have taken part in deliberation concerning this question.
2. Waving all formalities in order to expedite <sup>the</sup> matter, would it not be better to have only one text common to three Contracting Parties; that is English text on which we have been negotiating? If we insist to have the Pact in three languages it would necessitate as to have German and Italian versions together with Japanese <sup>text</sup> for submission to Privy Council to be examined closely in each of the three languages. This would further postpone <sup>the</sup> conclusion and publication of the Pact which I hate to see. Again, one language text would go far towards to lessen possible discrepancy in interpretation.  
Please also get as <sup>quickly</sup> as possible answer this point.
3. Will you please ask Ribbentrop for the last time to agree to authorise the German Ambassador here to exchange note with Foreign Minister (Matsuoka) on the contents of Draft Protocol as drawn up (of course not in the form of the secret Protocol) and try to get answer as early as possible?

N. B. - Foreign Minister confesses that he is unable to proceed further on the matter without definite replies from Berlin on the above three points.

58

100

capacity as far as possible in favor of our allied Japan in order to facilitate the peaceful establishment of the new order in the Greater East Asia.

I have the honour to present to Your Excellency this principal statement in accordance with the ideas of the German Foreign Minister representative Minister Stamer and according to the repeated instructions of German Government transmitted to myself during the conversation concerning the Three Powers Pact.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, the highest consideration.

57

B-0061





103



**THREE POWERS PACT BETWEEN JAPAN,  
GERMANY AND ITALY.**

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

**ARTICLE 1.**

Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

**ARTICLE 2.**

Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

60

B-0061

104

- 3 -

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at \_\_\_\_\_, the \_\_\_\_\_ day of the \_\_\_\_\_ month of the \_\_\_\_\_ year of Syōwa, corresponding to the \_\_\_\_\_

61

- 2 -

ARTICLE 3.

Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three Contracting Parties is attacked by a power at present not involved in the European War or in the Sino-Japanese Conflict.

ARTICLE 4.

With a view to implementing the present Pact, Joint Technical Commissions the members of which are to be appointed by the respective Governments of Japan, Germany and Italy will meet without delay.

ARTICLE 5.

Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three Contracting Parties and Soviet Russia.

ARTICLE 6.

The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

B-0061

106/109

11

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

外務省

(日本標準規格B5)

106/109

111 (106/109)

外務大臣ヨリ在京獨逸國大使宛往翰案

以舊輪船上致候陳者本大臣ハ日本國政府ハ獨逸國及伊太利國政府ト均シテ現在ノ歐洲戰爭ガ其ノ範圍及規模ニ於テ能フ限リ制限セラレ且急速ニ終結センコトヲ熱望スル旨並ニ日本國政府ニ於テモ右目的ニ對シ有ラユル努力ヲ惜マザルベキ旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候

然レドモ大東亞及其ノ他ノ地方ニ於ケル現狀ニ鑑ミ日本國政府ハ日英間ニ何等武力紛爭發生ノ危險ナキコトヲ現下ノ情勢ニ於テ確信スルコト能ハザル次第ニ有之從テ日本國政府ハ獨逸國政府ニ對シ右可能性ニ付注意ヲ喚起スルト共ニ日本國政府ハ右ノ如キ場合ニ獨逸國ガ其ノ有スル一切ノ手段ニ依リ日本國ヲ援助スル爲最善ヲ畫サレムコトヲ確信スル旨陳述スルモノニ有之候

外務省

(日本標準規格B5)

外務大臣ヨリ在京獨逸國大使宛往翰案

九月三十一日

B-0061

107 110

(53)  
110  
(11)

Strictly Confidential

Excellency:

I have the honour to inform Your Excellency that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured in the present circumstances that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German Government to such a possibility and to state that they feel confident that Germany will do their utmost to aid Japan in such eventuality with all means in their power.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the highest consideration.

63

B-0061



106  
109  
108  
107

ヲ達サルルコトヲ確信スル旨陳述スルモノニ有之候」  
 本使ハ此ノ機會ニ於テ貴國ノ内容ヲ了承致候  
 本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

外務省

(日本標準規格 B5)

108  
107  
106  
105

在東京通商大使ヨリ外務大臣宛來翰案  
 以書翰書上致候陳者本使ハ左記内容ヲ有スル本日附書翰ヲ圖添致候  
 「本大臣ハ日本國政府ハ獨逸國及伊太利國政府ト均シク現在ノ歐  
 洲戰爭ガ其ノ範圍及規模ニ於テ能フ限リ制限セラレ且急遽ニ終結  
 センコトヲ熱望スル旨故ニ日本國政府ニ於テモ右目的ニ對シ有テ  
 ニル努力ヲ惜マザルベキ旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候  
 然レドモ大東亞及其ノ他ノ地方ニ於ケル現狀ニ鑑ミ日本國政府ハ  
 日英國ニ何等武力紛爭發生ノ危險ナキコトヲ現下ノ情勢ニ於テ確  
 信スルコト能ハザル次第ニ有之從テ日本國政府ハ獨逸國政府ニ關  
 シ右可能性ニ付注意ヲ喚起スルト共ニ日本國政府ハ右ノ如キ場合  
 ニ獨逸國ガ其ノ有スル一切ノ手段ニ依リ日本國ヲ援助スル爲最善

外務省

(日本標準規格 B5)

九月廿五日  
九月廿六日  
九月廿七日  
九月廿八日  
九月廿九日  
十月一日

B-0061

107  
1101

3/11/11  
1101

Strictly Confidential

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's letter <sup>No. 1111</sup> of this date with the contents as follows:

"I have the honour to inform Your Excellency that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured in the present circumstances that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German Government to such a possibility and to state that they feel confident that Germany will do their utmost to aid Japan in such eventuality with all means in their power."

I take this occasion to ~~take~~ note of the contents of Your Excellency's letter.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the highest consideration.

1101  
3/11/11

62

B-0061

112

石丸

2

昭和 年 月 日

101

石丸

13/11

III

外務大臣ヨリ在京獨逸國大使宛往翰案

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ閣下ガ獨逸國政府ノ爲ニ爲サレタル左

記口頭宣言ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

「獨逸國政府ハ南洋ニ於テ現ニ日本國ノ委任統治下ニ在ル舊獨逸

國殖民地ガ引續キ日本國ノ屬地タルコトニ同意スベク之ガ爲獨逸

國ハ何等カノ代價ヲ受クルモノトス南洋ニ於ケル其ノ他ノ舊殖民

地ニ關シテハ右殖民地ハ現歐洲戰爭ヲ終結スル平和ノ成立ト共ニ

自動的ニ獨逸國ニ復歸スベシ然ル後獨逸國政府ハ出來得ル限り日

本國ニ有利ニ右殖民地ヲ有價ニテ處分スル目的ヲ以テ友好的精神

ニ基キ日本國政府ト協議スルノ用意アリ」

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

B-0061

114

- 2 -

I avail myself of this opportunity to renew to  
Your Excellency the highest consideration.

55

103

Strictly Confidential (Draft)

Letter from the Foreign Minister to the  
German Ambassador.

Excellency:

I have the honour to ask Your Excellency to  
confirm the following oral declaration which was made  
by Your Excellency on behalf of the German Government:

"The German Government agree that the former  
German Colonies actually under Japan's Mandate  
in the South Seas shall remain in Japan's posses-  
sion, it being understood that Germany be in a  
way compensated therefor. In regard to other  
former Colonies in the South Seas, they shall be  
restored automatically to Germany upon conclusion  
of peace ending the present European War. After-  
wards the German Government would be prepared to  
confer, in an accommodating spirit, with the  
Japanese Government with a view to disposing of  
them as far as possible in Japan's favour against  
compensation."

64



116

(特別  
教下)

Strictly Confidential (Draft)

Letter from the German Ambassador to the Foreign  
Minister

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your  
Excellency's letter of this date No. 1111 and to confirm  
the oral declaration set forth therein as made by me con-  
cerning the former German Colonies in the South Seas.

I avail myself of this opportunity to renew to Your  
Excellency the highest consideration.

66

115

(特別  
教下)

石丸

(絶対極秘)

在京獨逸國大使ヨリ外務大臣宛來翰案  
以書翰啓上致候陳者本使ハ本日附貴翰第  
中ニ掲ゲラレタル南洋ニ於ケル舊獨逸國殖民地ニ關シ本使ノ爲シタ  
ル口頭宣言ヲ確認スルノ光榮ヲ有シ候  
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

118

without difficulties and that it would not be in keeping with the far-reaching importance of the Pact and it would be practically impossible to anticipate all possible cases which might arise in the course of its application, they can only be dealt with in the spirit of mutual confidence and helpfulness as they arise from time to time.

Conclusions of the Technical Commissions stipulated in Article 4. of the Pact shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

It is needless to say that whether or not a Contracting Party has been attacked within the meaning of Article 3. of the Pact shall be determined upon consultation among the three Contracting Parties.

If Japan, contrary to the intentions of the Pact, should be attacked by a Power so far not engaged in the European War or the China Incident, Germany will consider it a matter of course to give Japan full support and assist it with all military and economic means.

With regard to the relations between Japan and Soviet Russia, Germany will do everything within its power to promote a friendly understanding and will at any time offer its good offices to this end.

Germany will use her industrial capacity and other resources technical and material as far as possible in favour

of

Handwritten mark

117

(Handwritten circled text)

(Personal letter of the German Ambassador to His Excellency the Imperial Japanese Foreign Minister)

Excellency:

At the moment when our conversations, begun on the 9th instant at Tokyo, are about to eventuate in a successful conclusion of the Three Powers Pact, it is Minister Stahmer's and my sincerest desire to tender to Your Excellency the expression of deepest appreciation for the principal part Your Excellency has played throughout in a most generous and accommodating spirit.

We wish to take this occasion to state once more in this letter some of the salient points reiterated in our conversations with Your Excellency which are as follows:

The German Government are convinced that the Contracting Parties are about to enter into a new and decisive phase of world history in which it will be their task to assume the leadership in the establishment of a new order in Greater East Asia and Europe respectively.

The fact that for a long time to come their interests will coincide and the unrestricted mutual confidence of the Contracting Parties form the solid foundation on which the Pact is built.

The German Government firmly believe that the technical details concerning the execution of the Pact will be settled

without

Handwritten mark

Handwritten Japanese notes and signatures on the right side of page 117.

119

- 3 -

of Japan in order both to facilitate the establishment of a new order in Greater East Asia and to enable her to be better prepared for any emergency. Germany and Japan will further undertake mutually to aid each other in procuring in every possible way raw materials and minerals including oil which they will have been in need of.

The German Foreign Minister implicitly believes that Italy will of course act in concord with Germany and Japan when and where assistance and co-operation by Italy is sought in reference to the matters above enumerated.

I have the honour to present to Your Excellency the above exposé as the views of the German Foreign Minister conveyed personally by his special delegate, Minister Stahmer, and repeatedly transmitted to me from my Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

gez. Ott. →

69

B-0061

(絕對隱秘)

外務大臣宛來翰案

以書翰啓上致候陳者本月九日東京ニ於テ開始セラレタル吾人ノ會談  
ノ結果幸ニシテ三國條約ノ締結ニ到達セントスルニ當リ閣下ガ會談  
中終始最モ寛容ニシテ且友好的ナル精神ヲ以テ主要ナル役割ヲ果サ  
レタルコトニ對シ閣下ニ向テ深甚ナル謝意ヲ表明スルコトハ「スタ  
ーマー」公使及本使ノ最モ眞摯ナル希望ニ有之候  
吾人ハ此ノ機會ニ於テ閣下ト吾人トノ會談ニ於テ反覆セラレタル若  
干ノ主要事項ニ付再ビ本書翰ニ於テ左記ノ通陳述セント欲スルモノ  
ニ有之候

獨逸國政府ハ締約國ハ夫々大東亞及歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ指  
導的地位ヲ占ムルヲ任務トスル世界歴史ニ於ケル新ナル且決定的

ナル段階ニ入ラントスルモノナルコトヲ確信ス  
將來長期ニ亘リ締約國ノ利害關係ガ一致スベキ事實及締約國ノ絶  
對的相互信頼ハ條約ノ確乎タル基礎ヲ成スモノトス  
獨逸國政府ハ條約實施ニ關スル技術的細目ハ困難ナク決定セラ  
ルベク條約實施中ニ發生スベキ有テニル事慮ヲ豫想スルハ條約ノ重  
要性ト一致セズ且實際上不可能ナルコトヲ確信ス右事慮ハ發生ス  
ル毎ニ相互信頼及互助ノ精神ニ基キテノミ處理セララルベシ  
條約第四條ニ規定セラレタル專門委員會ノ決定ハ夫々關係各國政  
府ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ實施セララルコトナカルベシ  
一締約國ガ條約第三條ノ意義ニ於テ攻撃セラレタリヤ否ヤハ三締  
約國間ノ協議ニ依リ決定セララルベキコト勿論トス

條約ノ意圖スル所ニ反シ日本國ガ未ダ歐洲戰爭又ハ支那事變ニ參加シ居ラザル一國ニ依リ攻撃セラレタル場合ニハ獨逸國ハ日本國ニ全面的的支持ヲ與ヘ且有ラニル軍事的及經濟的手段ヲ以テ日本國ヲ援助スベキコト當然ナリト思考ス

日本國ト「ソヴィエト」聯邦トノ關係ニ關シテハ獨逸國ハ其ノ力ノ及ブ限り友好的了解ヲ増進スルニ努ムベク且何時ニテモ右目的ノ爲周旋ノ勞ヲ執ルベシ

獨逸國ハ日本國ヲシテ大東亞ニ於ケル新秩序ノ建設ヲ容易ナラシムルト共ニ如何ナル危局ニ對シテモ充分備フル所アラシムル爲自國ノ工業能力並ニ其ノ他ノ技術的及物質的資源ヲ能ク限り日本國ノ爲ニ使用スベシ更ニ獨逸國及日本國ハ有ラニル方法ニ依リ其ノ

必要トスル原料品及礦物（油ヲ含ム）ヲ獲得スル爲相互ニ援助スベキコトヲ約ス

獨逸國外務大臣ハ前記諸事項ニ關聯シ伊太利國ノ援助及協力が要請セララルトキハ伊太利國ハ勿論獨逸國及日本國ト同調スベキコトヲ絕對ニ信ズルモノナリ

本使ハ右陳述ヲ特別代表者「スターマー」公使ニ依リ親シク齎サレ且本國政府ヨリ繰返シ本使ニ傳達セラレタル獨逸國外務大臣ノ見解トシテ閣下ニ提示スルモノニ有之候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

125

will coincide and the unrestricted mutual confidence of the Contracting Parties form the solid foundation on which the Pact is built.

The German Government firmly believe that the technical details concerning the execution of the Pact will be settled without difficulties and that it would not be in keeping with the far-reaching importance of the Pact and it would be practically impossible to anticipate all possible cases which might arise in the course of its application; they can only be dealt with in the spirit of mutual confidence and helpfulness as they arise from time to time.

Conclusions of the Technical Commissions stipulated in Article 4. of the Pact shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

It is needless to say that whether or not a Contracting Party has been attacked within the meaning of Article 3. of the Pact shall be determined upon consultation among the three Contracting Parties.

If

71

124

Strictly confidential (Draft)

(Handwritten signature)



Personal letter of the German Ambassador to His Excellency the Imperial Japanese Foreign Minister.

Excellency:

At the moment when our conversations, begun on the 9th instant at Tokyo, are about to eventuate in a successful conclusion of the Three Powers Pact, it is Minister Stahmer's and my sincerest desire to tender to Your Excellency the expression of deepest appreciation for the principal part Your Excellency has played throughout in a most generous and accommodating spirit.

We wish to take this occasion to state once more in this letter some of the salient points reiterated in our conversations with Your Excellency which are as follows:

The German Government are convinced that the Contracting Parties are about to enter into a new and decisive phase of world history in which it will be their task to assume the leadership in the establishment of a new order in Greater East Asia and Europe respectively.

The fact that for a long time to come their interests

will

70



127

- 4 -

and Japan when and where assistance and co-operation by Italy is sought in reference to the matters above enumerated.

I have the honour to present to Your Excellency the above exposé as the views of the German Foreign Minister conveyed personally by his special delegate, Minister Stahmer, and repeatedly transmitted to me from my Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

gez. Ott. →

73

126

- 3 -

If Japan, contrary to the intentions of the Pact, should be attacked by a Power so far not engaged in the European War or the China Incident, Germany will consider it a matter of course to give Japan full support and assist it with all military and economic means.

With regard to the relations between Japan and Soviet Russia, Germany will do everything within its power to promote a friendly understanding and will at any time offer its good offices to this end.

Germany will use her industrial capacity and other resources technical and material as far as possible in favour of Japan in order both to facilitate the establishment of a new order in Greater East Asia and to enable her to be better prepared for any emergency. Germany and Japan will further undertake mutually to aid each other in procuring in every possible way raw materials and minerals including oil which they will have been in need of.

The German Foreign Minister implicitly believes that Italy will of course act in concord with Germany and

72